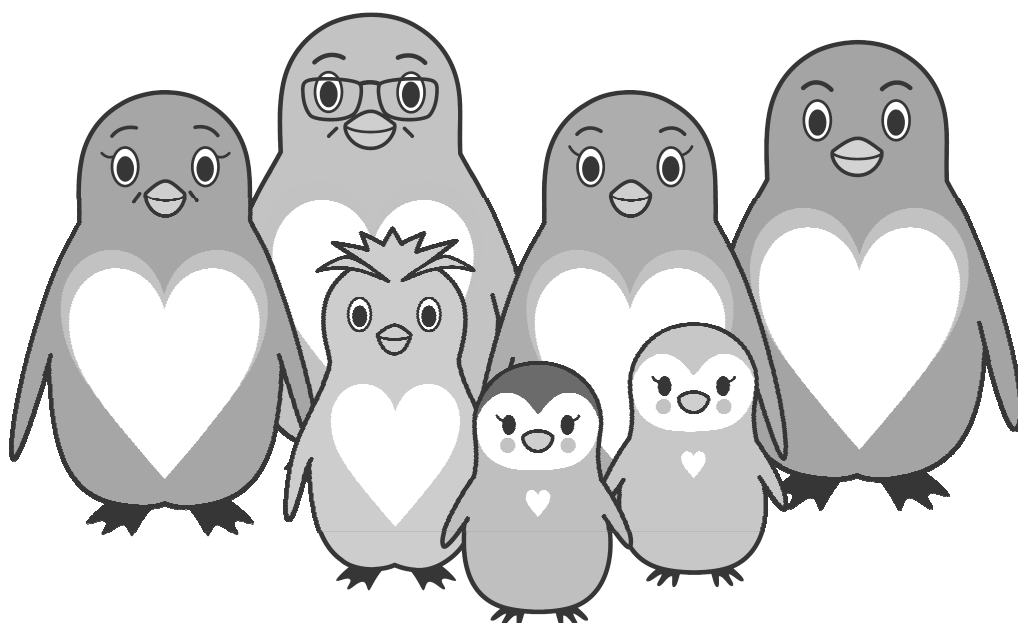


養育家庭(里親)体験発表集 (令和2年度)



東京都里親制度普及啓発キャラクター

「さとペン・ファミリー」

東京都福祉保健局 少子社会対策部

「養育家庭(里親)体験発表集」の発行に当たって

都内には、様々な理由により親元で暮らすことのできない子供が約4,000 人います。そのような子供を、自らの家庭に迎え入れ、家庭的な環境で育てているのが「里親」であり、東京都ではその制度の普及に取り組んでいます。「養育家庭」は里親制度の一つであり、養子縁組を目的とせず、一定期間子供を育てる家庭です。

毎年、東京都は各区市町村と協力し、都内各地で養育家庭（里親）体験発表会を開催しています。この冊子は、令和2年度に開催された体験発表会において、養育家庭（里親）の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

養育家庭（里親）になろうと思ったきっかけ、元里子の委託されていた時の思い、交流・委託中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と委託児童の関係、子供を途中から育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭（里親）をやっていて良かったという話や、悩んだ時に養育家庭（里親）仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、養育家庭（里親）だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただき、都内における養育家庭（里親）に対する理解を深めていただく契機になれば幸いです。

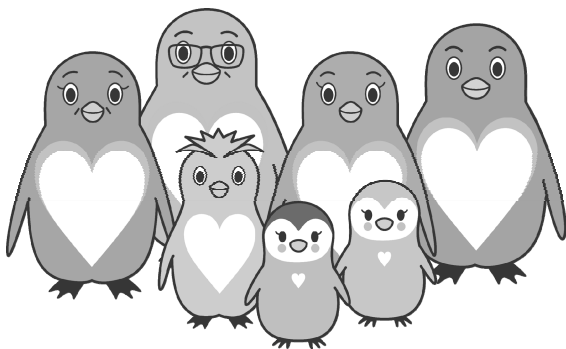
令和3年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

榎 本 光 宏

目 次

1	【マンガ】里子養育体験記	
	～太郎君と私の家族のお話～・・・・・・	1
2	Yちゃんの成長と子供を通して広がる世界・・・・・・	16
3	ファミリーホームの実子として	
	～様々な個性を持った里子たちとの生活～・・・	18
4	かわいくて仕方がない息子	
	～出会いから特別な存在になるまで～・・・・・・	20
5	一時保護委託を経験して ～短くても濃密な日々～・・・	22
6	どんな時も見守って、受け入れてくれる養育家庭・・・・・・	24
7	血のつながりを越えて、子供を愛したい気持ちが	
	一人でも多くの子供たちに届くように・・・・・・	26
8	24時間里親がそばにいる、	
	安心して伸び伸び過ごせる環境で育つ子供たち・・・	28
9	自立後も相談できる存在・・・・・・	30
10	『あなたは大事なんだよ』と発信し続けること・・・・・・	32
11	たくさんの兄や姉と	
	ありのままを受け入れてくれる里親さん・・・・・・	34
12	自立する日まで、言葉と態度で愛情を伝える・・・・・・	36
13	里親が寄り添い続けた時間と愛情が希望となるように・・・	38



この体験発表集には、13組の養育家庭（里親）の方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、里親制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを願っています。

里子養育体験記

～太郎君と私の家族のお話～



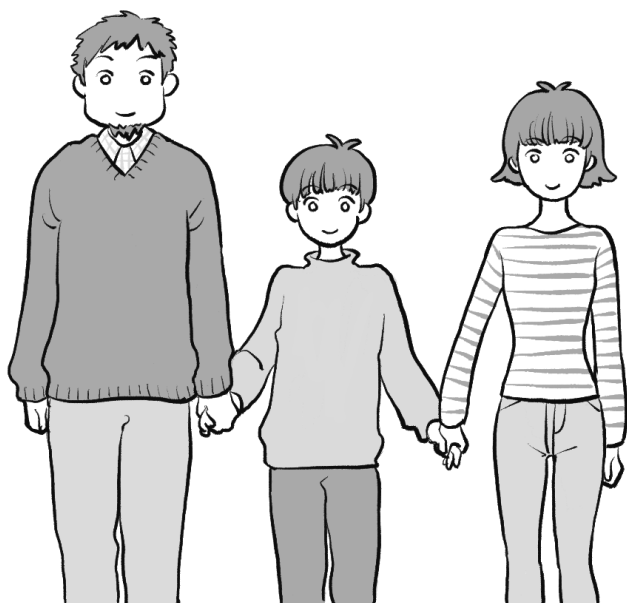
作：奥山一郎 イラスト：AiLeeN

※本体験記に登場する氏名は仮名です。

プロローグ

私たちは
遅くに第一子を授かりました

そのため
第二子を熱望していました



夫婦共に高齢なので、子供が
独りぼっちになってしまいう
可能性があると思ったからです

兄弟がいれば、将来なんでも
相談できる身内がいることは
子供達にとって大きな助けに
なると思っていたからです



ところが...

第二子はなかなか授からず...

不妊治療をやってようやく定着しても
流れてしまいうの連続でした



先生曰く、やはり高齢のため
難しいだろうと言う見解でした

治療をやめるにやめられず、
精神的にもキツイ日々が
続いていました



そんな折、ひよんなことから
養子縁組と里親制度の事を知りました

妻がこれ以上悩むのを見るのも嫌だったし



どんな友達よりも長く一緒に生活する
もう痛くないし

悲しくないよ

血はつながらなくても
お互いの為になるんじゃないか...



私たちは、里親の説明会を受けに行きました

養育家庭(里親)と特別養子縁組を
前提とした養子縁組里親に
制度が分かれていること

親元で暮らすことのできない
子供を委託する施設は
3歳頃までは乳児院、それ以降は
児童養護施設になること

特別養子縁組は
里子の実父母との親子関係を
終了させてしまうこと

色々な事を研修で
学びました

養子?

里子?

そして、私たちは養育家庭(里親)になることにしました

実父母との親子関係を終了してしまうことに、どうしても抵抗があったことと
そして、なによりも養子を取るということに自信がなかったからです



自己紹介



太郎君が初めて我が家に来た時のことです

太郎君は周りと比較すると
小さく、そしておとなしく
ポヤーンとしている感じの子でした



言葉もあまり発話が出来なかった太郎君は
産まれたときに斜頸が原因で
しばらく立つこともできず

そのせいで、発達がゆっくりしている
ということでした



でも、初めて会ってお散歩している時に
手が汗ばんだのを気にしているところ

自分のハンカチを差し出してくれた
やさしい気持ちを持っている子でした



何回かの交流後

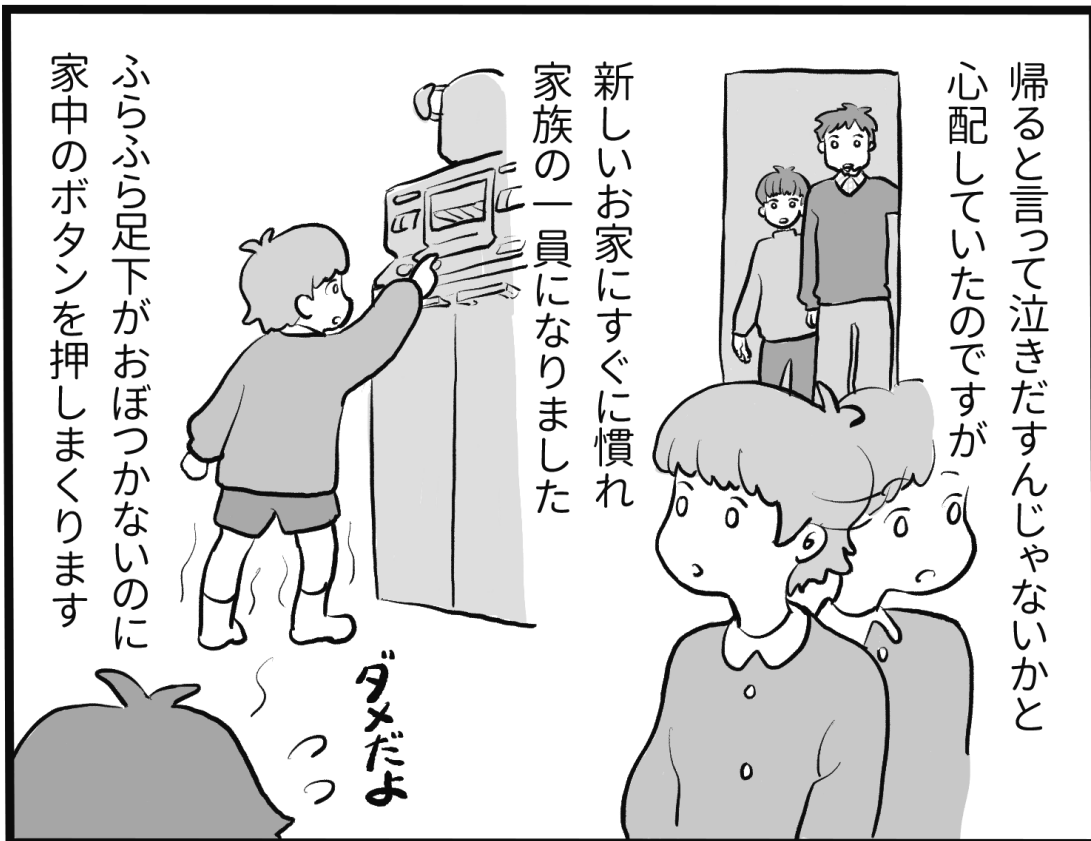
太郎君は晴れて我が家に来ました

帰ると言って泣きだすんじゃないかと
心配していたのですが

新しいお家にすぐに慣れ
家族の一員になりました

ふらふら足下がおぼつかないのに
家中のボタンを押しまくります

ダメだよ



ひとしきり太郎君がお家に慣れたところ
乳児院からアルバムが届けられました

太郎くんのお父さんお母さんへ
暑くなりましたが、元気で
お過ごしですか？ 私たち
が太郎くんが生まれてから
ずっと大切に作ってきた
アルバムを送ります。
これから太郎くんのお父さん
お母さん、お兄ちゃんへ

太郎君3ヶ月

ずっとこうを
見つめている！
おもしろいものでも
みつけたのかな

ベッドのスキマ
にいつも手を
のばしている
おちやが
ほしくしょうがない！

乳児院で預かった時から
3歳までの写真がいっぱいコメントと
一緒に飾られてました

こんなにも、

一生懸命育ててくれてたんだ…

私たちも頑張らなきゃ



とは言うものの
太郎君はなかなか成長せず
発語も赤ちゃん言葉程度でした



どうしたらよいか
分からなかったので



児童相談所からは

児童発達支援センターがあるので
そこに相談してみるように
アドバイスをもらいました

『児童発達支援センター』
って言うのがあるので通ってみました



ところが児童発達支援センター
は申し込みが多数で

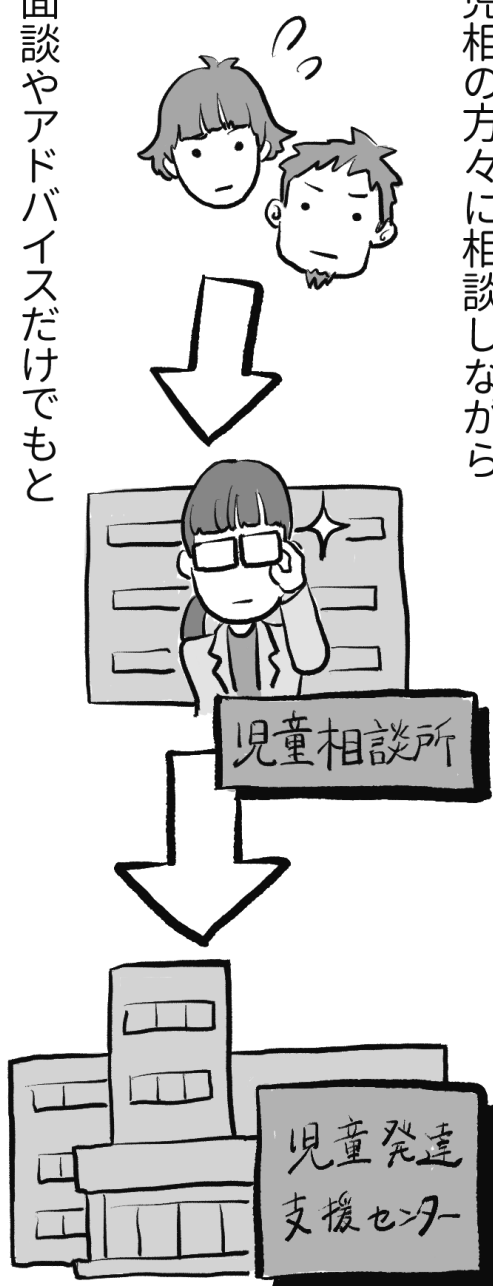
全然空きがありません



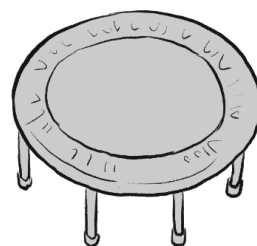
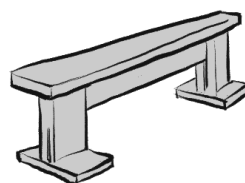
児相の方々に相談しながら

面談やアドバイスだけでもと

指導をなんとか受けられるようにしました



児童発達支援センターの先生いわく
体幹が発達に大きく影響するということだ



平均台とか鉄棒、トランポリンが
良いということでした

少しずつ買いそろえて行ったら
ウチのリビングは
アスレチック場ようになってしまいました



リビングの床はボロボロ…



中でもおすすめだったのが、出かけるときに
リュックサックいっぱいペットボトルを持たせることでした

バランスと体力がつくそうです

リュックサックが
歩いてるw



わはははっ
ううう…

そのかいがあつてか4歳中頃を過ぎると
よくしゃべるようになりました

パパー

おなか
すいた

あはねー
ぼくのだよ

しゃべったらしゃべったで、もうにぎやかでたまりません



告知について

ウチでは里子という事をオープンにしていました

あらっ
親戚の子？

里子なんです

取り繕うとのちのち変になりますし
突然兄弟が増えるのも不自然だったからです

言葉が達者になると

幼稚園のお友達から聞いたとかで
色々赤ちゃんの頃のお話を
聞いてくるようになりました

〇〇ちゃんは

××病院で

産まれたんだって

ママ

僕が赤ちゃんだった頃さあ

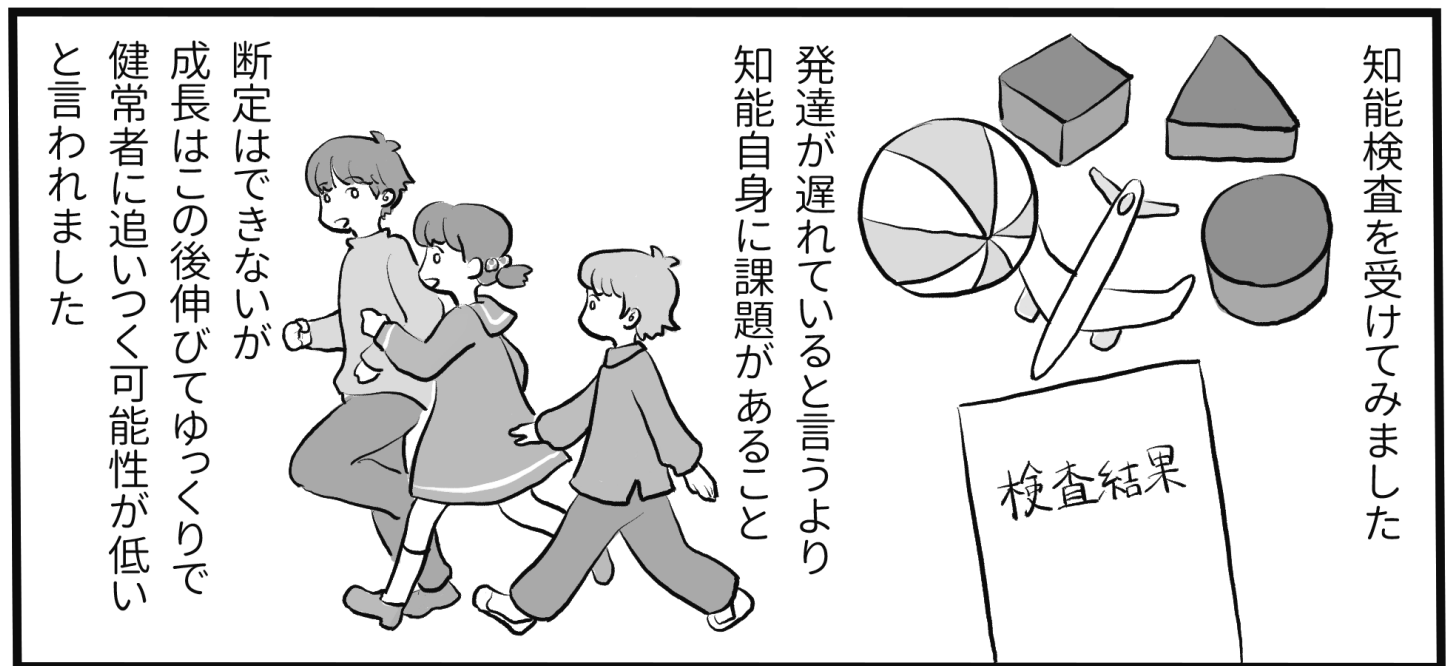
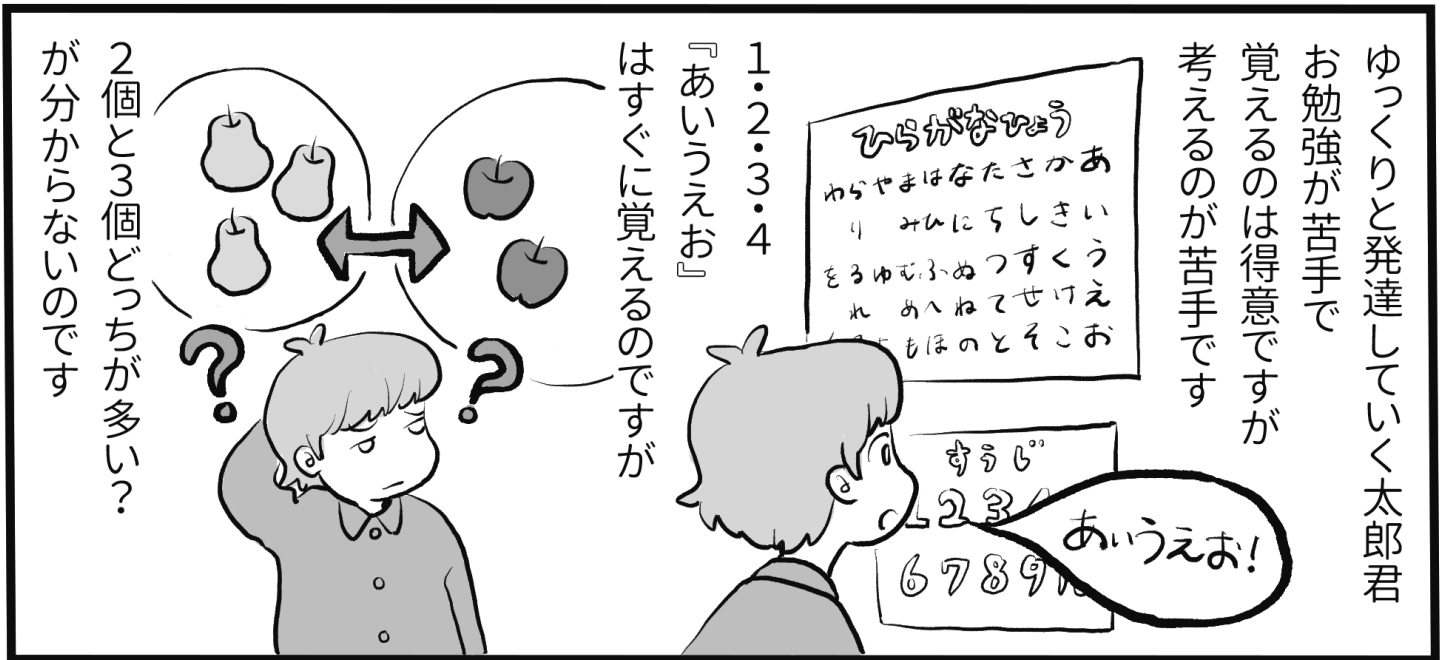
隠していた訳じゃないけれど…

なんて言おう、どうしようと言う気持ちで
いっぱいになりました



本もたくさん読みました

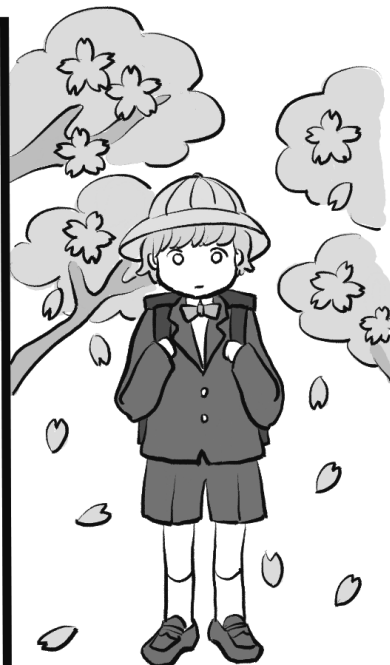




パターンとして覚えてしまえば
普通にやりとりできる
そんなことを無意識に強要してた
のかもしれない…

ごめんね太郎君…

6歳になると
小学校の入学の準備です



お兄ちゃんが通っている
近くの小学校に入学を
希望したところ
その学校には特別支援級がなく



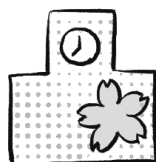
校長

副校長

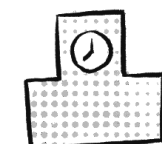
冷たいあしらいを受けました

特別支援級がある小学校までは
徒歩で30分

特別
支援級



30分



5分



小学一年生から30分歩かせる

訳にもいかず

お兄ちゃんやお友達と

別の学校に行かねばなりません

区役所や教育委員会

教育委員会
区役所

いたる所に掛け合っ

通常級での進学をお願いしました



結果...

入学が許され
お友達がいっぱいいる
小学校に通えることになりました



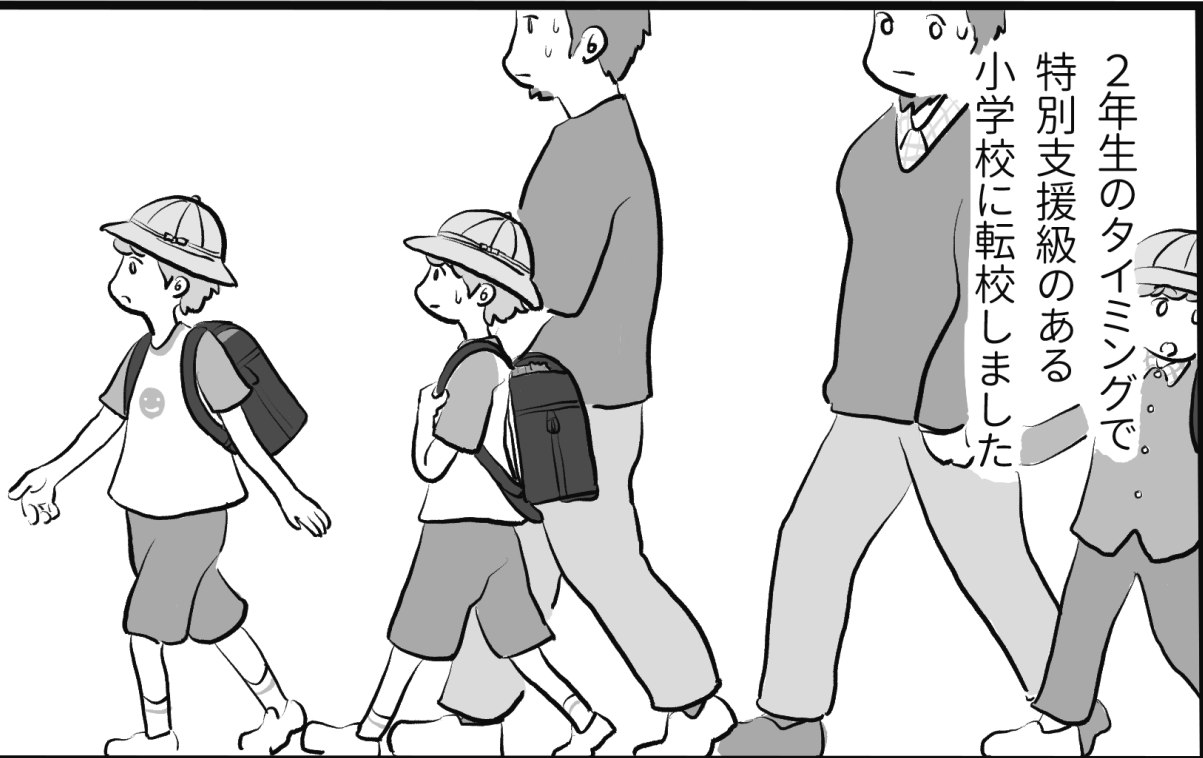
でも、小学校の課題が難しくなっ

学級崩壊さながらのクラスだった
こともあり、普通の子でもケア出来ない
状況で、ましてや発達に特性のある子
の面倒なんてみれません...



2年生のタイミングで
特別支援級のある
小学校に転校しました

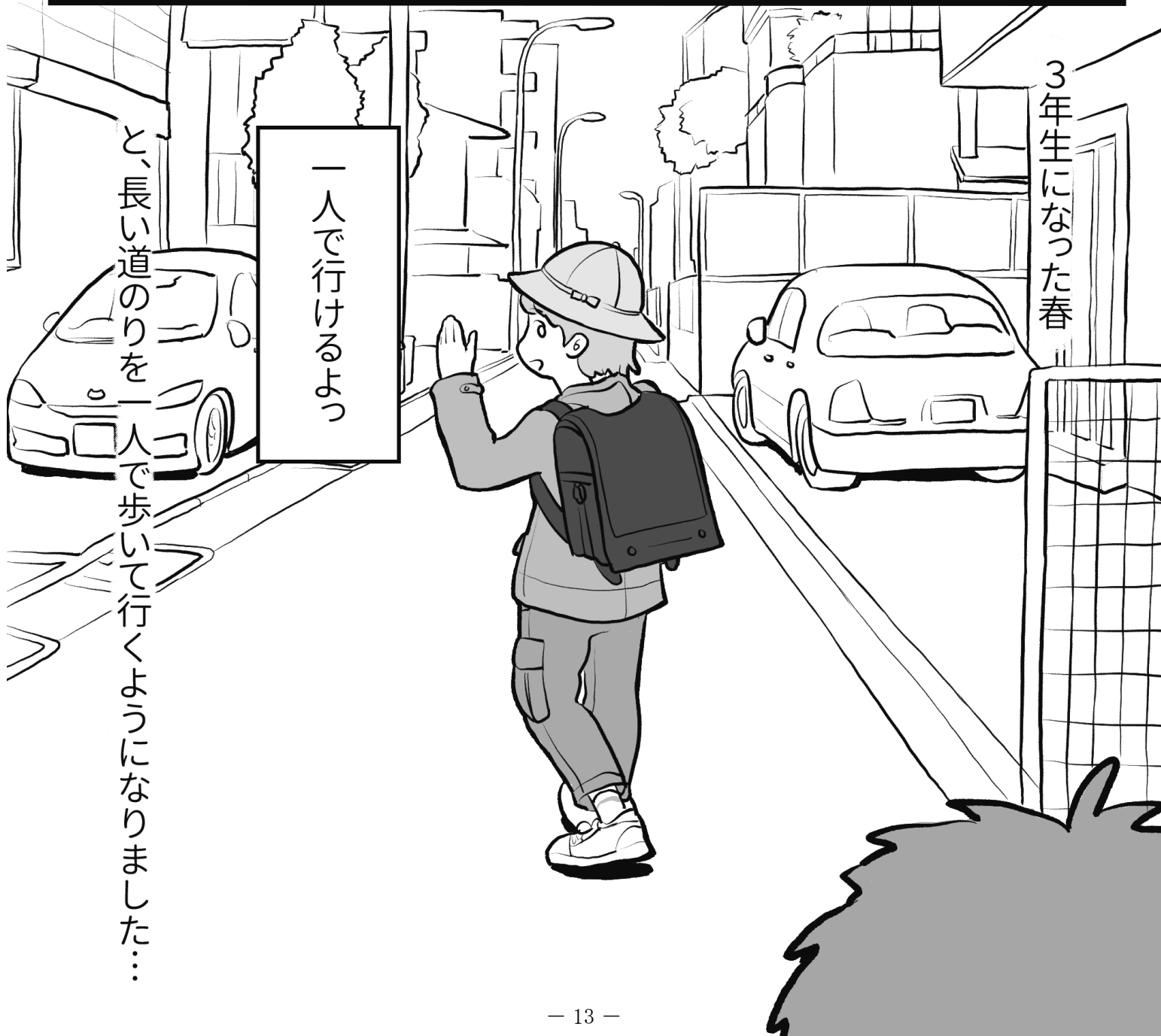
毎日、毎日30分の道のりを
一緒に歩いてく歩いて
通うことになりました



3年生になった春

一人で行けるよう

と、長い道のりを一人で歩いて行くようになりました…



禍福は

あざなえる縄のごとし

嬉しいことや楽しいことも大変なことも

順番に来ます

まるで縄の目のように…

大変な事が喜びに

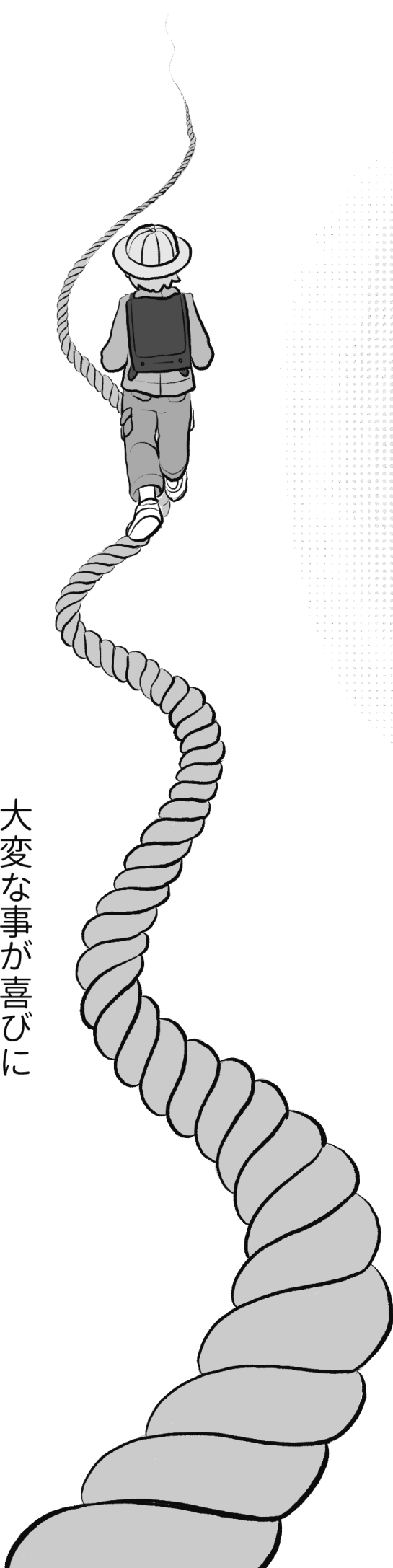
つながっているような気がします

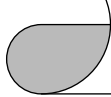
私たちは、嬉しいことも大変なことも

全部まとめてこの出会いと出来事を

楽しんでいけたらと思っています

おしまい





養育家庭（里親）体験発表集を手にとっていただき、ありがとうございます。
本書は、令和2年度の養育家庭（里親）体験発表会の発表者の方々
のご協力のもと、当日の発表内容をマンガや文章に編集し直したもので
す。

次ページ以降も、里母さんや里父さん、委託されていた元里子さん、ま
た家庭内でともに育った実子さんたちのお話を掲載しています。

一人でも多くの方に、里親さんたちの生の声をご覧ください、里親制度
に関心をお持ちいただけますと幸いです。

また、東京都では10月・11月の里親月間を中心とした養育家庭（里
親）体験発表会などのイベントのほか、年間を通して、委託事業者である
里親支援機関等による相談会や出前講座などを行っています。さらに、里
親支援機関が運営するホームページ「Tokyo 里親ナビ」では、里親さんた
ちへのインタビュー動画・記事の掲載に加え、イベントの開催案内や関連
するホームページの紹介なども行っております。

ぜひ、こちらのホームページもご覧くださいと思います。

Tokyo 里親ナビ

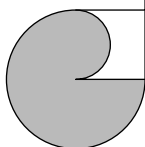
—子どもと里親の暮らしを知るサイト—

<https://tokyo-satooyanavi.com/>

里親ナビ



それでは、引き続き、里親さんと子供たちの生活の一部をご覧ください。



2 Yちゃんの成長と子供を通して広がる世界

【里母】

うちの家族は、5歳の年中の女の子、Yちゃんと夫と私の3人家族です。Yちゃんは、1歳8か月のときにうちに来ました。私は、結婚してすぐ子供が欲しかったのですが、不妊治療しても授かりませんでした。里親をすることも考えていたんですが、なかなか踏ん切りが付きませんでした。

そんなときに乳がんにかかってしまって、もう子供どころか、私の人生もこれで終わりのかなと思ったのですが、何とか治療して復活することができました。

その後、残りの人生どうしたら良いかなと考えたとき、やはり子育てがしたいと思い、国立市での体験発表を聞きに行きました。そうしたら、たまたま昭島市に住んでいる里親さんが体験発表していて、「ああ、昭島市にも里親さんがいるんだ。」とちょっと勇気をもらって、児童相談所の方に里親をやりたいと伝えました。

研修・実習を受けて、里親の認定を受けてから、短期の一時保護を受け入れて8か月過ぎた頃、ようやくYちゃんと会うことになりました。

乳児院の先生が「人見知り、場所見知りがひどいです。」と言っていたのですが、週に3回の交流が始まり、乳児院で会う時には、毎回遠くから大きな泣き声が聞こえてきて、お部屋に入って来ても泣いているか、先生の膝の上で固まっているかでした。

外出、外泊となって、私に段々慣れてくると、よく食べるし、おてんばで、家のどこにでも上ろうとして、ぶら下がれる所にはどこにでもぶら下がり、引き出しもどんどん開けて、家の中がぐちゃぐちゃになっていたのですが、ダメダメって言うのも嫌なので「そうだ、ジャングルジムを買おう」と思いついて購入すると、家にいる時はそれに登って遊んでくれるようになりました。

家に来て最初の1年くらいは、私も子供も慣れるのが大変でした。乳児院の先生は、服を着て子供とお風呂に入るのも、私と初めてお風呂に入った時も大泣きでしたし、乳児院には男性がいないので、夫に対しても泣くし、車のシートベルトをつけても泣くし、本当に1年くらいはスーパーに行くのにも泣くので、遠出はできなかったですね。

私が一番大変だったのは夜泣きで、ひどい時は1時間おきにギャーと泣いて、かかとを床に打ちつけて、悪夢を見てうなされているのか、病気なのか、と心配したのですが、抱っこしようとしても、バーンと跳ね除けられるし、後ろにのけぞるし、毎晩寝かせるのに本当に格闘しました。

乳児院の先生に夜泣きの相談をしたら「環境が変わったので、日中の刺激を少なくし、児童館に行く回数を少なくして下さい。」と言われました。

でも、家にじっとなんかしていられない感じだったので、児童館にまず一番乗りして、人が来はじめてから帰って、夕方、人がいなくなった公園で遊ばせたりしたら、大泣きがだんだん減ってきました。私一人で夜泣きと格闘していたんですが、限界を感じて、夫と交代で隣の部屋で寝たりして助けてもらいました。

今はもう、そんなことはなく、手をつないで寝るくらいになって、ほとんど夜泣きはしなくなりました。

うちは二世帯住宅で、1階に住む夫の父から「何で泣いているんだ。」とよく言われていました。そう言われることで、私が子供を泣かせていて、私はだめだと言われているような気がして、泣かさないように努めていたのですが、ちょうど子供もいやいや期でしたし、そのうち私も開き直って、子供だから泣くのは当たり前だと、泣く理由を父に説明して「泣いてかんしゃくを起こすのは正常な成長なんです。」と説明したら、言われなくなりました。

里親をやる前に、義父には反対されていましたが、義母も亡くなっているので、迷惑をかけられないと思っていました。でも毎日子供と顔を合わせるうちに、義父も子供に慣れてきて、子供も『おじいちゃん』と呼ぶので、可愛くなってきたようです。

去年の4歳の誕生日の前日、突然「Yちゃんはお母さんのお腹から生まれてきたんだよね」と言われました。その前から「赤ちゃんはどうやって生まれるの」「Yちゃんの1、2歳のころはどうだった」などと質問していました。

真実告知については児相の方に相談したり、研修を受けていて「今が真実告知のタイミングかも」と思って、次の日の誕生日に、夫と一緒にYちゃんに、私のお腹から生まれてきたのではないと話しました。

どういう反応が来るのか怖かったのですが、Yちゃんはじわじわ涙ぐんで「お母さんのお腹から生まれたかった」と言いました。そんなふうに言われると思っていたのですが「そうだね。だけどこれからも一緒だよ。このお家で一緒にいようね。」と言いました。その後も、度々、お母さんのお腹から生まれたかったと言ってきます。

真実告知については、突然子供のほうから質問してくるので、こちらはどきっとするのですが、子供の理解力に応じてこれからもその都度、答えていかないといけないな、と思っています。児相の方からも嘘は教えないでください、と言われているので難しいですし、どんな質問が来るか分からないですけど、これからも答えていかないと、と思っています。

うちに来た頃はまだ単語しか話せなくて、ご飯ご飯とか、公園公園としか言えなかったんですけれども、この3年半で大人の私たちと会話ができるようになり、最近はああ言えばこう言うというふうになったり、私がなかなか出なかった言葉を教えてくれたりして、どんどん成長する姿がとても嬉しくて楽しいです。

私も年で、50代でこういう育児が始まって、体力的にも辛い時もありますが、乳がんの辛い闘病生活、社会と断絶していた時の辛さを思ったら、今は楽しいことがたくさん増えました。今は子供を通して世界が広がって、里親の方々、幼稚園のお友達のお母さん方など、色々な方と知り合って、子供がいなければ体験できないことをたくさん体験させてもらっています。これからYちゃんは思春期に向かい、どういうことが待ち受けているのか分かりませんが、今、できることを精いっぱいやっていきたいと思います。

3 ファミリーホームの実子として ～様々な個性を持った里子たちとの生活～

【実子】

私は4人姉妹の次女で、両親をあわせると6人家族です。

私の実家はファミリーホームを運営していて、現在、6人の里子があります。私は、大学卒業後、児童養護施設の職員として働いていましたが、結婚を機に退職し、月に一度、1週間泊まり込みで実家のファミリーホームの手伝いをしています。

今日は実子としての目線から、里子たちとの生活についてお話したいと思います。

私が初めて里子と出会ったのは、小学校高学年の時でした。2歳の男の子の里子について、母からは事前に話があったと思いますが、正直私は覚えていません。この子と生活を共にしていくにあたっての不安や違和感といったものは全くなかったことを覚えています。

学校から帰ってきてからも、里子たちが家にいることには特に違和感なく、最初は一人だった里子も2人、3人と増えていき、その都度、母から「今度、こんな子が来るよ。」という話を聞いてその日をととても楽しみにしていました。

あるとき、里子たちが私の学校行事に来てくれたので、友達に里子について説明をすると、血のつながらない子が家にいるってどんな感じなの、気まずくないの、と言われたことがありました。

私はそのとき初めて、里子と暮らすということには、そういう感覚をもつことが普通なのだと気付きました。それくらい、私の中では里子たちのことをすんなりと受け入れることができていたのだと思います。

当時16歳だった女の子と初めて会ったときは、それまでの里子たちとは違い、年が4つしか離れていなかったのが緊張しました。委託当初は視線も下を向き、暗く、ネガティブなオーラを放っていたように感じました。

しかし、自立する頃にはまるで人が変わったかのように、明るくかわいい女の子に変わっていました。母や、周りの人たちとの関わりの中で、一人の人間がこんなにも変われるのかと、衝撃を受けました。

その女の子は今でもときどき実家に遊びに来ることもあります。自立はしたものの、この子にとっての帰る場所は今でも実家（ファミリーホーム）なのだと実感しています。

高校を卒業して、里子たちという時間が増えてきてからは、関わり方の難しさを感じることも多くなりました。里子たちは一人一人個性が強く、言葉一つ伝えるのにも工夫が必要な子もいます。

発達障害を持つ中学生の男の子は、自分の思っていることをうまく言葉で伝えることが難しかったり、相手の言葉を理解するのに時間がかかることがあります。私たちにとっては当たり前なことでも、この子にとってはとても複雑に感じる事が多くあります。なので、こちらが伝えたいことがうまく伝わらないとき、何で伝わらないのか、どうすれば伝わるのか、私の中で葛藤することもたくさんありました。

この男の子は3歳のときに委託されてきました。母が目の前からいなくなると体が反り返るほど泣きじゃくり、母を探して玄関から飛び出したり、大変だったことを覚えています。

今でも母っ子ですが、母がいないとどうにもならなかった時期を考えると、周りの環境に少しずつ自分自身が合わせようとしたり、感情を抑えようと努力したりして本当に成長したと実感しています。

現在小学6年生の女の子は、2歳のときに委託されました。頭が良く、とにかく手のかからない子でした。成長するにつれ、多動や衝動的な行動が目立ってくるようになったので、こちらからの言葉かけを工夫していく必要があります。今でも勉強が得意で、本を読んだりしているときの集中力は私も見習いたいくらいです。

高校1年生の聴覚障害を持つ男の子は5歳のときに委託されました。言葉でのコミュニケーションができなかったので、初級の手話教室にも通いました。今でも手話が完璧にできるわけではありませんが、簡単な手話を取り入れながら、はっきり話すなどの工夫をして、コミュニケーションをとっています。

今は高校生になり、少し反抗期を迎えています。高校の新しい制服や部活のユニフォームが届いたとき、それを見て欲しくてわざわざリビングに来たりする可愛いところがあります。

このように、里子たち一人一人の個性を考えながら、具体的な声掛けを意識したり、うまく里子たちとコミュニケーションが取れるように工夫していますが、彼らとの出会いがなければ、こうしたことを考えることも、意識することもなかったと思います。

里子たちと出会ったことで、私の考え方や視野がとても広がったように感じます。

また、母と里子たちとの信頼関係はとても固く、母がここに至るまでたくさんの努力や苦労をしてきたことが感じ取れます。私の知らないところで、母は里子たちのために本当に色々頑張ってきたと思います。たくさん悩み、辛いこともあったと思います。それは、これからはなくなることはないと思いますが、常に前向きで、今の生活を楽しんでいる母のことを私は尊敬しています。

今の生活が母にとっての幸せでもあり、それは里子たちの幸せにもつながっているのだと感じています。私はこのような環境に育ったことを誇りに思っています。

私の周りでは里親について知らない人がたくさんいます。里子たちと共に暮らしていくことは、決して簡単なことではないということも、実際に暮らしていて感じました。

しかし、これらのことを通して、私も里子たちと一緒に学び、成長し、気づかされたことはたくさんあります。親や姉妹と一緒に暮らせること、頼れる大人が近くにいてくれること、安心して眠れる場所があること、帰る場所があること。これらすべてが当たり前のことではないということを身に染みて感じています。

こうした環境を与えることができる里親という制度が、里子たちの成長にとっても大きく影響しているということを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思います。

4 かわいくて仕方がない息子 ～出会いから特別な存在になるまで～

【里父】

私が里親になったきっかけは、不妊治療を四、五年やっても子宝に恵まれず、諦めていた時に、電車で目にした里親募集の広告でした。今までは、赤ちゃんが欲しいと願っていましたが、赤ちゃんでなくても子供でもいい、血縁も気にしていないと気づき、すぐに妻に相談し、兎相に電話をしました。

現在、もうすぐ6歳になる、とてもとても小憎らしく、とてもとてもいとおしい、元気で生意気な男の子と私と妻の3人で、楽しく暮らしています。出会った頃は「おとうたん」「おかあたん」と甘えてきた、自分のことを「ちゃん」づけで話していた、小さくてかわいらしい子が、今では「お父ちゃん」「お母ちゃん」、あれ買って、これ買ってと駄々をこね、自分のことを「俺」というようになり、初めて会った子でもすぐ仲良くなり、ずっと走っている元気な子に育ちました。最近、足がどんどん速くなって、陸上の短距離選手のようなきれいなフォームで走る姿を見ると、うれしく思う反面、私の足では来年には追いつけなくなりそうだなと思い、少しずつ鍛えているところです。

一緒に暮らし始めて最初に直面した課題は、おむつ交換です。おいつ子、めいつ子の面倒をよく見ていたのですが、おむつ交換だけは避けていました。でも、息子の時は逃げるわけにはいかないので、勇気を出して初めてのおむつ交換に臨みました。その時は、息子も不安そうな目で私を見つめていました。幸い、保育士をしている妻が手順を的確に出してくれて、こなすことができましたが、それからスムーズにできるようになるまでは少し時間がかかりました。妻がいない時に出してしまったら、頼むから軟便はやめてくれと願って替えていて、いいうんちだとほっとしました。今でも、遊びに夢中になるとトイレに間に合わないことがあり、公園に行く時は着替えが手放せません。

時間が経つとともに手がかからなくなり、字も書けるようになり、自転車にも乗れるようになりましたが、食については成長しておらず、私たちの悩みです。交流時から、食事の時に落ち着きがなく、メインは残して、デザートはしっかり食べるという様子でした。食事前に体を動かしてお腹を空かせれば食欲が増すと思いましたが、それでも効果がありません。ハンバーグやカレーなど子供なら喜ぶメニューを出しても箸の進みが悪く、好きな物を聞くと、ポテト、チーズとおやつのようなものばかりで困っています。食べる量も、保育士の妻から見ると2歳児くらいだそうで、足りているのかと心配です。今のところ大した病気もせず、近所でも知られたやんちゃ坊主に育っているの、そのうち食べるようになると思いますが、食事中、落ち着きのないのには困ったものです。

息子には、4歳になったくらいに真実告知をしました。私はその場にはおらず、寝る前に妻から話してもらいました。後から思えば、私も近くにいて話したほうがよかったと思っています。息子は、小さいながらも理解できたようです。次の日、妻が出かけた後、レゴやミニカーなどをリビングにぶちまけたり、「うるせえ」など暴言を吐いたり荒れました。しば

らく暴れて、疲れて寝た後は、もう陽気な息子に戻っていました。どう気持ちを切り替えたのかは分かりませんが、この子はすごいなと思いました。荒れている時の様子は録画しているので、大きくなった時に見せてあげようと思っています。

告知からしばらくしたある日、私が「おまえは、かわいい息子だな」とぼつりと言うと、息子が静かに「お父さん、ごめん」というのです。「何で、どうしたんだ」と聞くと「僕はお父さんの息子じゃないんだよ」と教えてくれるように言いました。それでも私は、「何があっても君はお父さんの息子だよ」と言っても聞かず、「じゃあ、何だと思うの」と聞くと、「お父さんは友達だよ」というのです。私は、この子は、ずっといる息子だと思い始めていたところだったので、友達という言葉が子供の口から出た時は、急に現実に戻され、何とも言えない寂しい感じがしました。今も友達感覚は変わっていませんが、ふと気づくと、息子はわがままも、好き嫌いも、自分の言いたいことが言えるようになって、少しでも物音がすると起きてしまっていたのに、布団を剥ぎ取っても起きないくらいよく寝られるようになって、息子にとって私たちの家が落ち着ける場所になったんだなと思うとうれしくなり、友達でもなんでもいいから、仲良く楽しく暮らせれば、それでもいいんだと思うようになりました。

今、私は、元気な子供が来て、うるさいくらいにぎやかな毎日ですが、とても幸せです。里親になって本当によかったと思っています。これから少年になっていく息子には、できるだけいろんな体験をさせて視野を広げてあげることが、私と妻の息子に対する役目だと思っています。入口までは一緒に考え、連れていってあげます。そこから最初の一步は、自分一人で進んで入っていけるような子に育てていきたいと思っています。

最後に、里親登録に興味のある方、迷っている方へ。ぜひ子供と一緒に暮らしていく生活をお勧めします。私も登録した後は不安でした。本当に里子の話は来るのだろうか。どのくらい待つのだろうか。自分の思い描いた子と全く違った時、うまくいくのだろうか。断ることはできるのだろうか、ネガティブなことばかり考えていました。

半年ぐらいして、最初の里子の話があり、女の子を希望していたのですが、男の子の依頼でした。それでも、その子に会いたいと返事をしたのですが、親元に戻れるということで、その話はなくなりました。また半年から一年ぐらいたった頃、今の息子の話が来ました。女の子ではないなと思いましたが、迷った末、会うことにしました。面会前に、写真を見せてもらいましたが、特別かわいいなという感情は湧きませんでした。そして、初めての面会。その時も、緊張もあってか、笑うとかわいいかもなぐらいしか感じませんでした。それが、何回か交流しているうちに、段々とかわいくなり、早く一緒に写真を撮りたい、3人で公園に行きたいと、特別な感情がふつふつと湧いてきました。

もう、そのころは不安がなくなって、この子と暮らしていけると、完全に気持ちが変わっていました。こういう愛情の変化は、里親をやっている人の中で、私だけではないと思っています。今では、こねくりまわしたいぐらい息子がかわいくて仕方ありません。暇さえあれば、息子のことばかり考えている状態です。子供はかわいいです。きっと愛情が湧いてきます。思っている以上に、周りの人もサポートしてくれます。ですから、安心して里親登録をしてみればと思います。私の体験発表は以上です。

5 一時保護委託を経験して ～短くても濃密な日々～

【里母】

私たちの家族はちょうど1年ほど前に里親登録をしました。今年、一時保護のお子さんを2回預かったばかりの若葉マークの養育家庭です。

我が家の家族構成ですが、私とアメリカ人の夫と小学2年生の一人娘です。

里親登録のきっかけは、娘が小学生になり、私の子育て負担が減るのを機に、夫婦で社会貢献になることをしたいと思い、東京都のほっとファミリーを見つけました。娘は一人っ子なので、兄弟になるような存在がいるのはいい経験かなと思ったことと、日頃から来客が多い我が家で、人懐っこく育った娘が抵抗なく、養育家庭もその延長線のように捉えて、楽しそうだなというので、申請を即決しました。

申請に当たっての懸念が、夫が外国人で日本語をあまりしゃべることができないことと、家族で旅行が多いこと。また、海外移住の可能性もありましたが、どれも問題ありませんでした。そこで、短期の養育家庭という形を基本に、里子は年齢、性別問わず、まず始めて見ようと登録しました。

登録が完了してひと月ほどで、娘より一つ年下の男の子が来ました。初めて幼児の男の子との生活が始まりましたが、男友達がちょっと遊びに来るのと、24時間何日も一緒に生活するスタイルの違いにすごく大変さを感じました。その男の子はおとなしいほうでしたが、2か月間生活して、うちの家族には女の子のほうが合っているということが分かりました。ささいなことですが、我が家には女の子の服とかおもちゃしかない。一時保護なので、着の身着のままの里子が来て、男の子の下着もないことなど、ちょっと戸惑いました。そういう物理的な面や娘と里子がお風呂に一緒に入れなくて、時間が別々に取られてしまうというようなことがありました。とくに、夫と娘からの強い希望で、次は女の子の受入れにしたいというので、変更させてもらいました。

こういう実体験に基づいた希望や変更も児相には快く対応していただき、気軽に相談にも乗っていただけるので、心強いサポートをしていただいています。

里子を受け入れてすぐに直面した我が家最大の問題は、実子との関係でした。ある程度心の準備をしていましたが、その予測をはるかに超えていたのが娘の嫉妬心でした。最初のうちはいいのですが、日がたつにつれて、嫉妬心がメラメラと音が出るくらいに激しくなっていきました。もともと面倒見もよくて優しい子だなと思っていたのですが、嫉妬心でこんなにいじわるになるのかなという、ちょっと驚きの一面を見ることになりました。本人も頭では分かっているけど、気持ちの部分でついてこないという悩みを打ち明けていました。それで、最初の里子が行ってしまった後「ああ、もうちょっと優しくしてあげればよかったな」と、本人も反省はしていました。ですが、二人目の女の子が来たときも、再生動画のごとく全く同じ展開になりまして、これは私たちがこれからずっと直面していく問題なのかなと思っています。

また、私が体験した戸惑いに、里子との感情的な距離感の取り方と一時保護独特の大変さ

というのがありました。

まず一時保護という短期の枠の中で、保護された里子との感情的な関わり合いをどうすればいいのかと戸惑いました。里子たちには安心して、我が家の一員として生活してほしいと思う反面、里子が心を開き始めて、私のことを「ママ」と呼び始めたときなど…里子がそうやってママの代理として私に甘えてきて、愛情を求めてきて、私たち家族に心を許してしまっても、その思いとは関係なく、時が来ると別れが来るわけです。また傷ついて捨てられたというような思いになってしまうんじゃないか、つらい思いをさせてしまうんじゃないかなと、里子への接し方、愛着の度合い、感情的距離感のバランスをどう取っていけばいいのかとすごく悩みました。

そうしているうちに、私は、園の先生になろうかなと思いつきました。里母としてひとりでつらくなっていたのですが、そう考えたら、ふっと気が楽になりました。里子はうちの園に短期で来ていて、私はお世話係の先生だと。生徒は卒園していくのだからと考えることによって、卒園を見守る保母さんと思えば、温かく出発を見送ることができるかなと気づきました。実際二人目のお子さんが来たときは、この心持ちで随分感情的に楽になりました。

次に、一時保護独特の密度の濃さという大変さもありました。我が家の場合、夫が仕事人間なので、子供の面倒はほぼ私が担当しています。週末は夫が手伝ってくれますが、愛情に飢えた幼い里子と24時間体制で、慣れない男の子の育児にほぼひとりで対応することになりました。実子との問題も抱えながら、休めないまま3週間過ぎる頃には心身共に疲れてきました。限界になったとき、里子を受け入れたときにいただいたアドバイスを思い出しました。里子はお客さんではないので、気負ったり特別扱いをする必要は全くない。一緒に自分たちの生活を続けていってくださいということでした。初めてで気持ちの入れ加減もわからず、全力で体当たりしていた部分があったので、自分の中で7割程度で対応するのが、いい具合だなというコツをつかみました。

一時保護でも3週間ぐらいたつと疲れてきます。特に慣れない新人のために、レスパイトのように2、3時間でも、里子を預かってもらえたら、私と娘との時間が取れて、娘もママと一緒に時間が過ごせた満足があったのかなというのは思いました。

こうして初回は悩んだり、反省させられることも多かったですが、何よりも自分たち家族のありがたさやつながりを再確認できました。だからこそ、改めて、里子にも家族のよさ、家族ってこういうものなんだよというのを体験してもらいたいなと感じました。

里子との今後の問題というのは、そのときどきで違ってくるだろうし、体験、経験とともに改善されていく部分だと思って、前向きに捉えています。

我が家の場合は、幸運にも周囲の理解に恵まれていて、里子を地域の皆さんで受け入れてくださっているのがとてもうれしくて、大変ありがたいです。

里子にとっても、人と人との温かさとか、温かい関わり合いというのは大切な経験になると信じています。これからも我が家のできる範囲で、自分たちのキャパと経験を増やしていきながら、今後も里子を受け入れていけたらいいなと思っています。

6 どんな時も見守って、受け入れてくれる養育家庭

【元里子】

私は今大学に通いながらアルバイトをしています。まず、里親さんのおうちの家族構成についてお話します。里父さん、里母さん、あと19歳の実の弟、血のつながっていない小4の双子の妹、5歳の妹、1歳の弟と一緒に暮らしています。

私は、4歳から今のおうちに来ました。今の里親さんのところに預けられたときは、自分の弟と離れ離れになるのではとか、弟が誰かに取られてしまうのではという不安があり、弟が知らない人に抱かれていたりするのがすごく嫌でした。自分は4歳だったので、置かれている状況をすぐに理解できて、「ああ、私は実の産みのお母さんたちに捨てられちゃって、こういう場所に來たんだな」って感じたのを覚えています。

その後普通に保育園に通って、小学生になったときに、周りの友達の家族との違いを実感しました。例えば、名字であったり、友達から顔立ちの違いを指摘されたり、新しい兄弟が増えたり、いなくなってしまうたりすることが違うなど実感していました。

でも、私は周りとは環境が違うなどとは思っていたけれど、それが変なことでも悪いことでもないと思っていたので、里親の下で育っていることを周りに隠してはいませんでした。顔立ちのことを聞かれたりして、事情を話しても、「そうなんだ」と受け入れてくれる友達が私の周りには多くて、みんな私に普通に接してくれていました。

次に、実親についてお話します。今までずっと、どうしてこうなったのかという事実を知っておきたいとは考えています。実親に対する気持ちも成長するに伴って少しずつ考え方が変わっていています。4歳から中学生頃までは、「どうしてこうなったんだろう」という気持ちが強くて、また、悪いことだけが記憶に残っていたので、自分は実親にとって要らない存在だったんだなって、よく考えていました。

中学生から高校生半ば頃までは、身近な里親家庭で実のお母さんが現れて、その里子が実親のところに帰ったという話を聞いて、自分も「もし今、実親が現れたら」とか、「自分が家族の選択をしないといけない日が来たら」と考えることが多くありました。

私の実親は、両方ともずっと連絡が取れていなかったんですけど、去年の春頃、お母さんのほうから児童相談所に直接連絡があったみたいで、実母に会いました。会ってみたいなどは思っていたんですが、実際会っても、「この人が実親なんだな」と実感することはありませんでした。実母は、新しい家庭を持っていて、「仕事に育児に大変だけれど幸せだ」と言っていて、心から安心したし、よかったなとは思いました。

でも、子供がいるということを聞いたときは、すごく悔しい気持ちになりました。実のお母さんもお父さんも、どっちも子供がいてもおかしくないと思っていたし、記憶がないだけで、小さい頃は一生懸命私を育ててくれたのかもしれないということは分かっていたんですが、子供がいるということを聞いて、自分は捨てられた側の子供だなど、改めて再認識してしまった感じがしました。実母からは、そのほかにもいろいろ話を聞くことができ、小さい頃から抱いていた「どうして私がこうなったのか」という疑問が少しだけ解消された気

がします。

次に、里親宅に預けられたときからの話をします。私は、預けられたときからずっと「自分が弟を守らなきゃいけない、強くあらなきゃいけない」と思っていて、それから環境のせいにせず、自分で生きられるようになりたいと思うようになりました。安定した道を進み、一人でも強く生きていけるようにいろいろなことに挑戦しました。

挑戦したことはたくさんありますが、大きく二つあって、まず最初は中学受験、その後に看護師の免許の取れる高校に進学しました。しかし、どちらもうまくいきませんでした。中学受験に落ちてしまったのは、もちろん悔しかったけれど、1校しか受けていなかったのも、「次、頑張ろう」と前を向く気持ちが強く、深く落ち込みませんでした。

高校は、看護師の免許が取れる高校に行き、家から2時間かかる高校だったので、寮生活をしていました。寮生活は、自分のことは自分で、洗濯とか掃除とかも全部自分でやらなければいけないし、看護のコースだったので、看護の実習、大変な授業、大量の課題で、日常の悩みとかがたくさんあって、でも自分は大丈夫と思っていたら、3年生の頃には身体的にも精神的にも限界が来てしまって、鬱病になってしまいました。学校にも行けなくなって、そのまま入院することになってしまいました。

約1年休学していたんですけど、休学中に過去のこととか、これからのこととか、たくさん考えて、そのときに頑張ってもうまくできないことはたくさんあるんだなということを知りました。それまで、自分は一人で頑張っていたつもりだったけど、今までずっと、先生とか、受け入れてくれる友達とか、そして家族にたくさん支えられて生きてきたのだなと身にしみて感じました。

実親のことや自分の存在について、きっとどこかで傷ついてしまっていることを、多分これからもずっと消すことはできないと思います。でも何回失敗しても落ち込んだままにならずに前に進めたのはどんな状況でも見守って、見捨てないで私を受け入れてくれて、育ててくれた家族がいたからなのだと、今は感じていて、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。今のお母さんとお父さんが里親をやってくれていて、私がそこに託されて育ったから、いろいろな経験ができました。もう「里子」ではなくて「元里子」という立場ですが、今も里親さんの下で暮らして、それが当たり前みたいにいられるのは、すごく幸せだと思っています。

最後に、この養育家庭について、私が思うことをお話します。私は、どんな形であっても保護される子供が少なく、もっというとなくなればいいなと思っています。でも、ゼロにするのはきっと不可能に近くて、それでも減らすためにできることや、多くの子供が救われるためにできることはあると思っています。どんな家庭においても、子供を支えて育てていくのは産んだ親だけではなく、その子供を取り巻く全ての人間と社会であると思います。

保護されている子供にとって支えになる一つの大きな存在が里親さんであって、里親制度をもっと多くの人に知ってもらえれば、救われる子供は、幸せを感じられる子供は多くなるんじゃないかと思っています。

7 血のつながりを越えて、子供を愛したい気持ちが一人でも多くの子供たちに届くように

【里母】

私は、2018年の9月に里親の認定を受け、現在、来月2歳になる男の子、Y君をお預かりしています。伝い歩きだった天使のY君は、あっという間にやんちゃ坊主になりまして、体力と精神力を試される毎日を過ごしています。

里親になったきっかけは不妊治療がなかなかうまくいかず、このままでいいのかと自問自答していた時に、里親の記事を見たことです。不妊治療は2年半ほど挑戦していましたが、どこがゴールなのか、そのゴールが来るのかも分からなくて、自分らしくないと悩み始めていました。ニュースでは虐待の問題があり、ドラマ、ドキュメンタリーと、色々な方向から養子縁組や里親の情報が私の中に積み重なっていました。

そんな時、私は大学卒業後、養護施設で7年間、保育士として働いたことを思い出しました。あの時、子供たちにしてあげられなかったことをやりなさいということなんじゃないかなと、そういう思いが湧き、ずっと霧が晴れた気がしました。

里親になると動き出してから、約1年後の2018年9月に認定をいただいた時は、わくわくして、いつ来るかと待っていましたが、1ヶ月経っても、2ヶ月経っても連絡は来ず、気持ちがしぼんでいきました。

2019年4月、児相から一時保護依頼の電話が入りました。期間が2か月ぐらい、4歳の男の子のT君でした。結果的に、2週間の委託期間になりましたが、4歳児のパワーと、賢さと、いじらしさに体力も精神力も使い切りました。T君は預けられた理由は分かっていて、でも甘えたい気持ちが沢山あって、気づくとしがみついたまま1時間眠っていた時もありました。児相から、「2週間で帰ります」と連絡が来た後、何故か涙が止まらなくなった私に、ティッシュを次々持ってきて、「僕、優しい？一人でお留守番になったら寂しい？」とかわいく聞いてくる優しい男の子でした。

初めての委託で明るみになったのは、子供の問題よりも、主人とのコミュニケーションが減り、私がイライラするということでした。ちょうど主人の仕事が忙しく、T君の生の様子を伝えられず、私の大変さも理解してもらえずで、ストレスが溜まる悪循環に陥りました。主人は主人で、突然来た4歳児に、どう接してよいか戸惑っていたようで、大きな課題となりました。

9月に里子委託の第一報がやってきました。認定されてちょうど1年経っていました。Y君に決定し、家庭訪問で、初めて写真を見たのですが、その天使の笑顔に「ひゃ〜ん」となるぐらい、かわいくて一目惚れでした。当時11か月のY君に会いに乳児院に行き、面会をしたのですが、小さい男の子がきょとんとした顔で連れてこられ、抱っこすると、軽いような、重いような、温かくて小さくて、本当にかわいかったです。

Y君を迎えるために、赤ちゃん本舗に行き、ベビーカーや洋服、ミルクなどを買いそろえました。もし里親になっていなかったら味わえなかった経験で、母親になる幸せをかみしめ

ました。委託に向けた長期外泊が始まると、まさに24時間一緒なわけで、がらっと時間の使い方が変わりました。ミルクのタイミングや慣れない離乳食の献立、危険がないようにチェックしたり、考えることも次から次へとあって、睡眠不足にもなりましたが、毎日実験と思って、何が起ころうとも楽しもうと心がけていました。

小さな子と行動するようになって思うのは、周りの方の一言や、一つの手に本当に助けられたり、安心して過ごせるということです。席を譲っていただいたり、ベビーカーを下ろすのを手伝っていただいたり、こんなにも見える世界が変わるとは思いませんでした。

もう一つ大事なことをお話ししておきたいと思います。それは夫婦の形が変わってくることです。二人だったら気にならない、気づかないで済んだことが、子育てが加わると避けて通れなくなるのです。実際にワンオペになってみると、どうしたら主人に大変さが伝わるのか悩んでしまいました。食器洗いをやってくれるようになった主人ですが、私としては家事をやって欲しい訳ではなく、Y君と三人で過ごす何でもない時間を大切にしたいだけなのです。今後も話し合っ解決し、夫婦としても、親としても、私達らしい形をつくっていききたいと思います。

不幸中の幸いと言いますか、コロナで在宅勤務になった主人に、私とY君の一日の生活を知ってもらえ、食事を一緒に食べたり、入浴したり、就寝まで一緒にいられたので、私のストレスは大分解消されました。こうして私の思いと一緒にチャレンジしてくれた主人には大変感謝していることを付け加えておきたいと思います。

それから、近所の方にも里親を応援してもらえていることにも感謝したいです。夜泣きがあるさくなくかと心配していた時も、「小さい子のパワーに元気をもらえるから気にしないで」と言ってくださったり、お子さんが小さい時に読んでいた絵本を譲って下さったり、心強いです。

里親であることをどこまで公表するかは、実際に始まってみて悩むことがあります。根掘り葉掘り聞かれるのもな…とか、言う必要もないかなとか思ってしまい、今後の課題です。

Y君の委託期間は、実親さんの養育環境が整うまでです。今は実親さんの写真を頂いて、寝室に置いて、「ママ、おやすみ」と声をかけたりしています。Y君と生活を始める時に、実親さんはパパ、ママ、私たちはトト、カカと呼ぶように決めました。Y君が知りたくなった時に、存在を曖昧にしたくなかったからです。これからY君に真実告知をして、実親さんとの交流が始まってからが里親としての苦労が始まるのかなと思っています。実親さんもY君も幸せになれるように送り出すことが私の使命です。

養育家庭の制度は、子供のための制度です。でも、こうして子供のできなかった私を救ってくれた制度でもあります。今の世の中、様々な家族の形があり、血のつながりが全てではありません。悲しいニュースがなくなるように、子育てで困っている人が頼れるように、子供を愛したい気持ちが報われるように、この制度が広まり、委託が増えるよう願っています。まだまだ未熟な里親ですが、私自身の成長も含め、主人と頑張りたいと思います。

8 24時間里親がそばにいる、 安心して伸び伸び過ごせる環境で育つ子供たち

【里母】

私は韓国出身で22年ほど前に日本に移住してきて帰化をしました。その後、結婚し今は日本人の夫と、15歳、6歳の里子2人の4人暮らしです。今日は、3年前に初めて最初に預かったY君の話をしたいと思います。6歳のほうです。

私たち夫婦に実子はありません。39歳のとき、子宮外妊娠をしまして、緊急手術をして、それから、不妊治療をしましたが、成果はありませんでした。どうしても子供が欲しかったので、主人に相談をしたら、養子でもいいねと言ってくれました。ネットで調べてたどり着いたのが、東京都のページで児童相談所に電話をかけたのが全ての始まりです。養子縁組希望で初めての面談をしましたが、詳しい説明と受託の現状を聞きまして、養子縁組から養育家庭のほうに希望を変えました。

それから、2017年1月、Y君との交流が始まりまして、7月に正式委託になりました。Y君が2歳で、私が45歳のときです。Y君がいた乳児院は、自宅から電車を乗り継ぎ、片道1時間ぐらいかかります。交流は4か月ぐらい、後半は週4、5回通いましたので、電車の定期券を買って通いました。

交流が始まってから、子供と接した経験がほぼなかった私は、どう関わればいいのか全く分からず、最初は、面会に行っても、保育士さんとY君とのやり取りを眺めているだけでした。Y君も、私には目もくれず、保育士さんのところに行ってしまう。たまに2人だけになったときには、Y君がすごく緊張しているのが分かりました。ひたすらシールをあちこちに貼るY君と、無言のままで面会時間が終わってしまう日もありました。さらに、ある日は、「今日はもう終わり。帰って」と言っては面会室のドアをたたくので、それを止めると、Y君は自分の頭を壁にがんがぶついたりしながら、私のことを拒否したこともありました。面会の途中でしたが、その日は打ち切りになりました。

そんな私ですが、乳児院の皆様はとても優しく受け入れてくださいました。2人が仲よくなるまで待ってくださったのです。ある日、乳児院の方から、絵本を買ってきて読んであげたらどうかとアドバイスいただきました。早速、絵本を買いに本屋へ行きましたが、どんな本がいいか、さっぱり分かりませんでした。1時間ぐらい悩んで、ぷっと笑えるような内容の絵本を買ってY君に会いに行きました。そしたら、幸いにその本が大受けしました。毎回その絵本を読んであげました。初めて絵本を読んであげた日を境に、Y君との関係ががらっと変わりました。その日からは、絵本だけではなく、2人でお絵描き、エプロン人形劇、お散歩、公園などなど、2人でたくさん遊べるようになりました。

その頃から、家では受入れの準備を始めました。子供を乗せることができる自転車とベビーカー、子供用の椅子、食器、布団などを買い、いつY君が来てもいいように準備をしました。うちに外泊に来るようになってからは、もうすっかり自信が持てるようになっていて、3人で楽しく過ごす時間を思い切り楽しみました。

しかし、子育ての経験だけでなく、日本の育児事情が全く分からない私にとっては、不安な時期でもありました。育児と幼児食に関する本を借りて読み、児童館の未就学児のプログラムに参加しました。養育家庭の集まりと研修にも積極的に参加をしました。そして、主人のお母さんがとても頼りになりました。家にY君を呼んでくれたり、子守をしてくれたり、本当に本当の孫のようにかわいがってくれます。

うちに来てから半年ぐらいたって、幼稚園に入ることになりました。今は年長です。幼稚園では友達がたくさんできて、毎日毎日いっぱい遊んでいます。スポーツが得意で、幾つかのスポーツ教室に通っています。来年には小学生になります。幼稚園の友達で同じ小学校に入る友達が多いので、とても楽しみにしています。

長期外泊という交流の最終段階では、1か月間仕事を休み、Y君と向き合いました。とても濃く、大事な時間だったと思います。もちろん子供は、いい子のときばかりではありません。だんだん言うことを聞かなくなり、私をたたいたり、おばあちゃんをたたいたり、危ないことをして大人を困らせます。でも、それも後になって考えてみたら、心の底から安心して、自我を出して発散していたのではないかと思います。

ほかの里親も同じ経験をしています。うちに来てから、最初は、とてもとてもたくさん食べていました。特にミニトマトを信じられないほどの量を毎日、毎回頬張っていました。ほかの食べ物もよく食べていたので、いつもおなかがスイカのようにばんばんに腫れ上がっていました。

乳児院の環境は、とっても衛生的で規則正しい生活を送り、栄養バランスの取れた食事が提供されます。保育士さんは優しく、子供の世話のプロだと思います。正直、そんなすばらしい環境で育ったほうが子供のためによいのではないかと思います。

しかし、Y君を迎えてから感じたのですが、子供は、そのような整ったすばらしい環境よりは、24時間そばにいてくれる大人、やりたいことを思う存分やらせてくれる、食べたいものをたくさん食べさせてくれる、そして安心して伸び伸び過ごせる環境を求めているのだということが分かりました。今後、少しでも多くのお子さんが、里子として家庭に迎えらるるといいなと思います。

9 自立後も相談できる存在

【里父】

私は18年くらい前、今と同じように悲惨なニュースを見て、一人だけでも助けられたらと思いフレンドホームを始めました。一人の子供を月に一回ずつぐらい預かっていました。その子とは6年間小学校卒業まで一緒に過ごして、中学校から自宅へ戻るということで、そこで終了しました。その後たまたまテレビのニュースで、私よりもっと年輩の方が、小さい赤ちゃんに離乳食を食べさせていたのです。そういうことがまだできるなら、養育家庭をやってみようと思いました。

認定されてもなかなか委託がないと思っているうちに、この後話すT君が保護所にいて、進路を決める大切な時期に学校に行けないでいると児童相談所から話がありました。面談をして、この子だったら大丈夫と思い引き受けました。一緒に生活した後、自立して彼は今社会人として仕事をしています。

その後、数名短期で預かりました。慣れるための時間が多少必要ですが、慣れてくると一緒の家族のように生活ができるので、そういう楽しみ方もあるかなと思っています。

ここからは元里子のT君とお話しします。現在はどんな仕事をしていますか。

【元里子】

介護福祉士として養護老人ホームの職員として働いています。

【里父】

私、年寄りなんですけれど、里親の第一印象はどうでしたか。

【元里子】

保護所で初めて面会したとき、ちょっとお年を召されていると思いました。自分は保護される直前まで祖父と二人暮らしでしたので、祖父よりは一回り若く、ただ実親よりは二回りほどお年を重ねられているので、正直ちょっと不安でしたね。どうやって関わればいいんだろうかなど、ちょっと悩みました。

【里父】

それでも里子として、6月からうちに来ると決めてくれました。その後3月中旬ぐらいまではずっと我が家で過ごしました。里子として里親の家庭で生活するのは、苦しかった？楽しかった？どういう感想ですかね。

【元里子】

1年にも満たないくらいの生活でしたが、苦しかった点、楽しかった点、両方ともあります。苦しかった点は、お箸の持ち方だとか、料理だとかも全然できなくて、そういった点を教え直してくれたところがつらかったりしましたね。楽しかった点は、今まで休日もずっと祖父の面倒を見ていて、家から出られず、せっかくの長期休みのときもアルバイト、祖父の世話、それでそのまま御飯を食べて寝るみたいな感じでした。でも、里親さんのところに行くようになって、里親さんの趣味のカーターのレースに一緒に行ったり、旅行にも連れて行ってもらって、今まで体験できなかった生活を体験させていただいたのがとても楽しかったで

す。

【里父】

そうだね、練習用の箸の大人版のやつを買ってきて、最初ものすごく使いにくそうで、でも大丈夫と言って頑張っていました。ちょっと大変だったろうなというのは思い出されました。次に印象に残っているような出来事があれば。

【元里子】

学校に行けてなかった時期もあり、最初の進路にはどうしても内申点が足りず、里親さんと相談して、いろいろ悩んで今の進路に決定しました。長い間ずっと不安だったので、進路が決まった途端に油断して、遊びほうけるようになりました。そんな中、夕飯を過ぎてもなかなか帰らなかったとき、里母さんにすごく怒られました。進路が決まったからってそうやって遊びほうけるだなんて私はもう情けなくて泣けてきたと言われ、本当に泣いてしまいました。そのときに、この人は僕のために泣いてくれて、そんなに思ってくれていたんだと気づきました。それが、一番とても印象に残っています。

【里父】

まあ、いろいろありましたね。そういう里子の生活から、無事に進路も決まって、専門学校に行くために今度は一人暮らしになりましたが、どうでしたか。

【元里子】

学校の近くでアパートを借りて一人暮らしをするようになり、三食料理をするのはこんなに大変なんだと感じました。自分で料理するのが面倒くさいので3キロぐらい痩せたんです。とても料理上手な里親さんで、おなかいっぱい食べさせていただいていたので、それだけいっぱい助けてくれていたのだと改めて感じました。

【里父】

食事を作るのも大変だと言っていますが、彼が作ったブリ大根は非常に美味しかったです。なので、一人暮らしでもきちんと食事していると思っていました。

最後にこれから里親になってみようかなという方に、僕はこうしてほしかった、こうならもっと良かったのになどを含めて、何かメッセージがありましたらお願いします。

【元里子】

僕は最初の1か月くらいはどう関わったらいいのか、全然分からなくて、御飯とか出かけるとき以外は部屋にずっとこもっていました。でも、里親さんはずっと里親として自分に関わり続けてくれました。僕はそれにとっても救われて、今もこうして横でお話ししているんですけど、それくらい関わりを続けて行けるようになりました。

今は一人暮らししていて、少なくとも2か月に一度くらいは里親さんのところに顔を出すようにしています。里子を卒業してもそれで終わりじゃなくて、学生ときは就職先の悩み、学業の悩み、あとは一人暮らしのおかずの話とかも聞いたりして、就職した今は、利用者さんとの仕事上の関わりの悩みや、実親との関わりの話など、心配事もいろいろ相談に乗ってくれています。卒業したらそのまま終わりじゃなくて、ずっと里親として面倒を見ていただけるような人になっていただければと思います。

10 『あなたは大事なんだよ』と発信し続けること

【里母】

私が里親になろうと思った動機ですが、主人の姉が里親になったのを見て、私たちも社会に何か貢献したいなと思っておりました。そんな時、私の両親がある依頼をしてきました。両親は里親ではないですが、後にうちの里子となるKちゃんの母親を小学3年生から高校1年生まで育てたことがありました。その母親はいろいろと問題行動を起こすなど大変な子供でした。その後、家出を繰り返し帰って来なくなりまして、東京のほうでKちゃんを生んで、育てられず施設へ入所させていたということが後々に分かりました。そのことを両親が知り、何度かKちゃんと面会をして、乳児院から児童養護施設に入所している姿を見て、何とかKちゃんを私の家庭で育てられないかと頼まれました。そこで、養育家庭に登録し里親になった次第です。

私たちは現在14人家族です。Kちゃんは6歳からお預かりしていて、18歳で措置解除、その後、一人暮らしをしないで我が家から仕事に通っています。現在は20歳になりました。私たち大家族の強みは、家族みんなが里子を迎え入れ支援していけるということです。特に里子がどんな子供でも、すぐに受け入れ自然体で接してくれます。それは本当に有り難いことだと思っています。

今までお預かりした里子は、20名あまりで短期から長期と様々ですが、一時保護でお預かりするケースが多いです。児童相談所から緊急で、「今、警察にいて」「保護所もいっぱい今夜行くところがないのでよろしくお願いします」という感じで、数時間後には一時保護委託となるケースが結構多いです。

その上で、現在養育中のT君についてお話しします。T君は実母と不調になったことで警察沙汰になり、一時保護所で数か月暮らしておりました。学校は不登校ぎみで、もう2、3日休んだら留年、退学になるかもしれないということで急遽我が家にやって来ました。当初、児童相談所も学校も、半年間休まないでT君が登校するのは多分無理だろうと思っていたようですが、我が家に来ると1日も休まないで行ってくれました。

また、T君はコミュニケーションが苦手で、初めは何を聞いても「うーん、うーん」と言っていて、なかなか答えが返って来ず寡黙な子供でした。ですが、次第に子供たちとゲームをやったりして仲良くなって、会話もしっかりできるようになり、時には大声で笑ったり冗談を言ったりして、こちらがびっくりするほどT君も変わっていきました。

そんな中、元々は一時保護委託で施設に入るまで預かるということだったので、施設の行先が決まり、児童相談所がT君に移動するということを伝えに来ました。ところが、T君はほかのところには行きたくないということをはっきり言ったそうです。今までT君が自分の気持ちを口ではっきりと伝えたことがなかったので、児童相談所はT君の気持ちを受け止め、T君は我が家に本委託となりました。

そんな私たちですが、委託を受ける中で過去に不調となった事例もあります。例えばK君は実父とのけんかが絶えなくて、家出をし保護され、緊急で一時保護委託となった子供です。

当時、高校1年生でした。毎日生活するにつれて態度が横柄になり、学校に行ったり行かなかったりとか、夜に帰って来るのが遅く、警察に捜索願を出したこともありました。K君に注意すると「お説教は、そのくらいですか。」と開き直ったり、捨てぜりふを言ったりと、家族が嫌がるようなことも平気で言うようになりました。主人の母も言って聞かせてはくれるのですが、K君の態度に次第にイライラしてきて、もうK君を見ているだけでストレスがたまってしまうのではないと訴えられました。私たちも、これ以上はもう無理かなと思い、お返しすることにしました。

それからK君は、実家に戻ったのですが、私たちはお返ししたことに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。もう少し頑張ってK君をサポートできなかったかなと、後になって後悔ばかりが残りました。

それから歳月が過ぎ、ある時、K君が突然奥さんと子供を連れてやって来ました。K君は、実家に帰ってから現在までのことを私たちに語ってくれました。付き合っていた今の奥さんが妊娠したことが分かり、高校を退学になったこと。実父とけんかになり、家を飛び出して奥さんの実家で子供を出産し生活させてもらっていること。けじめとして、これから結婚式を挙げたいので、私たちに親代わりで出席してほしいと言われました。その時ほどうれしかったことは今でも忘れません。あの時、K君は少しも恨んでいなかったということが分かり、今までの胸のしこりがすーっと取れた気がしました。K君と一緒に過ごしたことは少しも無駄ではなかったと改めて思いました。その後、結婚式に出席し、「K君は高校を退学になったので、これからは仕事をしながら高校の資格を取りたい」と言っておりました。

最後になりますが、里親になって思うことは、自分の発見が得られること、また子供と共に成長できること、これがとても貴重なことだと思います。スランプの時などは、児相やフオスタリング機関が相談にのってくださるので、困った時はどんな小さいことでもいいので、すぐに相談することが大切かなと思っています。

本当につらい成育歴の子供もいて、自分は家庭の中で大切にされてきていないという経験が多いです。そういう子供に、里親や周りの大人が「あなたは大事なんだよ。」ということを発信し続ける必要があると思っています。それには、こうやって体験発表などをやって里親を増やし、社会に周知し理解してもらうことも本当に大事なことだと思います。里親というものを知らない人が多いので、理解することが大きな支援につながっていると思います。

これからますます需要が高くなってくると思います。一人でも多く里親が増えていくことを望んでいます。

1 1 たくさんの兄や姉と ありのままを受け入れてくれる里親さん

【元里子】

私は、現在21歳で、社会人2年目として、一人暮らしをしています。私は1歳になる前に、乳児院に預けられて5歳までの間は養護施設で過ごしてきました。そこでの生活は記憶が薄いのですが、とても楽しかったことだけは覚えています。施設の先生とも、交流があり、学生の頃は学校が施設に近かったので、たまに顔を出していました。小学校に上がる前に里親さんと出会って、二十歳までの約15年間一緒に過ごしてきました。

里親さん宅には実子のお兄ちゃん4人とお姉ちゃん1人がいて、私は末っ子として、兄弟になりました。義理の兄や姉は本当の妹として、受け入れてくれて毎日のように遊んでくれました。学校の友達にも兄弟6人なんだといつも自慢していて、今でも自慢しています。兄弟が多いと、一人でネガティブなことを考える時間が少なかったり、ご飯の時間が楽しかったり、何か困ったことがあれば、頼ったりできるのでたくさんいいことがありました。くだらないことでけんかもしたりしていましたが、兄弟がたくさんいる家族の一員になれたことは、本当に幸せなことだったなと今でも思っています。

小学校の頃の私は本当にやんちゃという言葉では抑え切れないほどの子供でした。怒られると、実家の2階のトイレの窓から、飛び降りて家出をしたりしていました。あとは、たくさんの言葉で里親さんを傷つけてきました。「本当の親じゃないくせに」という言葉も、何度も何度も言ってきました。血がつながっていないということを理由に反抗をしておりました。私は、言いたいことを言って、真正面でぶつかっていましたが、こんな自分でも里親さんは、まず、ありのままの私を受け入れてくれてからきちんと叱ってくれたので、本当に感謝をしています。やっぱり、まず子供の気持ちを受け入れてからきちんと叱ることが大切なんだと大人になって、改めて思いました。

中学生になった私は、自分の名字について、少し考えるようになりました。里親さんの名字で学校に通っていましたが、大切な書類や卒業証書は本当の名字なので、それが嫌で、もう何とかして友達に見られないようにしたり、隠したりしていました。

あとは、年に1度、児童相談所の方の訪問があり、毎回、「本当の親御さんのこと知りたい」とか、「気になる」とか、聞かれたりするんですけども、里親さんの前で知りたいなんて、私は言えなかったので、「特に興味ないです」というふうに毎回答えていました。本当は、内心、私のお母さんはどんな人なんだろうとか、どうして私のことを施設に預けて迎えに来なかったんだろうとか、知りたい気持ちはありました。でも、そのときは、今の生活に満足している自分もいたので、深く知りたいというこだわりは持っていませんでした。いつか機会があったら、もうちょっとちゃんと知りたいかなというふうに、今は思っています。

あとは、中学から高校にかけて、本当に史上最強の反抗期だったので、何に関しても、すごくいらしていました。そのまま受験期になりました。受験の話をする、受験期は、里親さん、本当に大活躍で、私のために、本当にたくさん調べてくれたんですね。家事が終

わって、夜遅くから調べてくれて、その情報共有をたくさんしてくれました。義理の兄弟5人育てているので、受験のプロみたいな存在でした。奨学金や大学のことも、たくさん調べてくれました。そのとき、私はひたすら奨学金の小論文と受験勉強をやっておりました。里親さんは私の小論文の添削もたくさんやってくれました。私のために、本当にたくさん尽くしてくれました。その頃は、ちゃんとお礼もできなかったのですが、この場で今日里親さん来ているんですけども、本当に感謝だったなと思います。

高校生で、私が大きく成長できた経験がありまして、高3の受験が終わった後に、里親さんの紹介で、自立支援プロジェクトというものに参加させていただきました。その一つで、英語が好きだったのでマレーシアにホームステイしました。私と同年の児童養護施設で生活している子たちと一緒にマレーシアに行きました。その子たちは今までの経験を本当に涙目になりながら話してくれて、そういうお話を聞いていると、私は本当に里親さんに恵まれているんだな。感謝なんだなというふうに気づかされることが多くありました。この経験がなければ、里親さんへの感謝の気持ちとかも思い起こされることがなかったので、本当に参加してよかったなというふうに今でも思います。

無事、卒業して、晴れて短大生になったんですけども、大学生活では、結構グローバルな生活をしていました。英語が好きだったので、友達と一緒に夏休みずっとアメリカに行ったりとか、タイに行ったりとかしました。短大なので、すぐに就活という壁が目の前にやってきて現実に引き戻されて、自分の将来について、結構、本格的に考えるようになりました。措置解除されたら、一人でどうやって生きていくのなど、いろんなことを考えました。就活も、自己分析が足らずで思ったよりうまく進みませんでした。

そんなとき、里親さんは私のいいところを話してくれたり、会社情報を共有してくれたりしてくれました。全て私が求めているような、私に合ったものばかりで、私のことを誰よりも知っている里親さんに頼れたのは正解だったなと今でも思っています。

今こうして自分のやりがいを感じる仕事に出会え、私は本当に里親さんに恵まれていて、いろんな人に支えられて、ここまで成長してきたと思います。この先、やりたいことがたくさん出てくると思うんですね。そのときに、すぐにやっぱり頼れる存在といたら、私の中では、里親さんの存在が大きいです。私のことを実子と同じように愛して、育ててくれたからなんだなというふうに、今思います。私、これから一人暮らしで、里親さんも、今まで1時間ちょっとぐらいかかるんですけども、合間を縫って、これからも今までと変わらない関係を築けていけたらなと思っています。

最後にこれから里親さんになる方とか、既に里親さんの方とかにも伝えたいことがあります。子供が間違ったことをしたときに、一番大切なのは、まず子供の気持ちを受け入れることだと私は思います。すぐに否定をされると子供も、反抗的な態度を取りがちなので、まずは子供の気持ちを分かってあげる。そのあとどうして駄目なのかという、正当な理由を説明してあげれば、案外、素直に受け入れてくれるんじゃないかなというふうに思います。私は里親さんに育てられて、そう思ったので、少しでも伝われば、うれしいなと思います。

12 自立する日まで、言葉と態度で愛情を伝える

【里母】

私は里親制度に興味を持ち、調べていくうちに社会的養護の子供たちに協力ができるのではと考えるようになり、夫婦で話し合い、養育家庭になることを決めました。

里親になることを両親に話したとき、特に母親から、子供を育てるには責任がある、そんな苦勞を買ってまでしなくてもいいのでは、今あなたの年で、仕事と子育ての両立ができるのかと大反対されました。自分たちだけで育てるわけではなく、制度の中で、社会の中で育てていくのだということを説明し、両親をやっと説得できました。そうした家庭内の合意形成を取った上で登録手続きを進めていきました。

登録後はすぐに里子の紹介があるものと勘違いをしていたのですが、実際に子供と交流を始めるまでには結構年月がかかりました。諦めたほうがいいのかと思っていた頃に、今預かっている子供の紹介の話があり、里親に決まったときには本当に嬉しくて嬉しくて、会うのが楽しみでワクワクしていたのを覚えています。最初に写真を見せてもらったときも本当に可愛いらしくて、今でもその写真は飾って思い出になっています。

紹介の話があってから最初に子供に会ったのは1カ月後でした。フルタイムで仕事をしているので、仕事の調整は少し大変な面もありました。でも会いに行くと、1、2回会っただけで子供は、自分にとって特別な存在になるというのが分かるようで、はにかみながら来るのを待っていて、そんなに大変だったとか辛いと思うことなく、むしろ、本当に会いに行くのをわくわく楽しみにしていたという感じでした。

一緒に暮らし始めてからは、いわゆる試し行動については、あって当然だと私は思っていたので、苦勞と感じませんでした。実際には、コップに入っている水とか牛乳をわざとじゃーとこぼしたり、トイレ以外のところでおしっこをしてみたりという行動でした。喧嘩もしますが、子供は本当に仕草とか存在自体が全て可愛かったです。

印象深いのは子供が我が家に来て3か月ぐらい経ったときに、3人で寝ているとき一緒のふとんに入ってきて、ふっと「母さん、助けてくれてありがとう」という言葉を本当に突然言ったことです。2歳の子供が言った言葉なのでどういう意味があった言葉なのかというのは、本人も分からないかもしれませんが、そのときは本当に涙が溢れてきて、この子を一生懸命育てていこうと決心したきっかけだったと思います。

近所の方には、変に詮索されるより初めから話しておいたほうがいいのかと思います、里親であることをオープンにしていました。夫と子供と3人で一軒一軒まわって、「里親として子供を育てていくことになりました。まだ小さいので泣いたり大きな声を出したりしてご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いします」と挨拶をしました。皆さんとても歓迎してくれまして、今でも日々声をかけてもらい本当に良くしていただいて、見守って下さっています。

職場に対しても事実を伝えて、熱が出て休むときなどは皆さん協力してくださいました。委託を受けたのが年度途中だったので、最初は保育園が見つかりませんでした。幸い職場に

事業所内保育所がありましたので、そちらに入れてもらいました。子供を連れて電車通勤になりましたが、毎日席を譲ってくださる方などもいて、非常に助かりました。その後自宅近くの保育園にお願いして、里親であることは私からも、児童相談所の方からも説明し、子供の様子に関して情報共有をしていただいていたいました。

私の場合は里親であることをオープンにすることで、特に困ったことはありません。ただ1つだけ、名前に関して、普段は通称名ですが、3歳児検診とか小学校の入学前検診とかに行くと本名で呼ばれてしまうので、そのときには注意が必要でした。受付の際にあらかじめ事情を説明し、通称名で呼んでいただくようお願いしますが、なかなか現場の中でその辺の情報が共有されなくて本名で呼ばれてしまうことがありました。区のほうでも何か検討をしていただくとちょっと助かるかなと思います。

私の両親に関しては、子供が実際に来てからは一番の理解者となり、最大限協力をしてくれて、孫として本当に可愛がってくれています。

養育に対して気をつけていることは、社会的養護の状況にある子供たちというのは自己肯定感というのが低くなりがちなので、自己肯定感を高められるような関わり方をすることです。毎日ハグして、大好きだよ、愛しているよと、言葉と態度にちゃんと出して伝わるようにしています。その中で、あなたはとっても大切な存在であり、本当に生まれてきてよかったということが伝わるようにと思って接しています。ゆくゆくは自立して一人の人間として生きていかなければいけないので、自分で考えて自己決定できるように、年齢に応じて少しずつ関わるということに気をつけて接しています。

今後の関わり方については、やりたいと思ったことはできるだけ経験させて社会に送り出してあげたいなというふうに思っています。アイデンティティの確立までは悩んだり、時には荒れたりすることがあると思うので、できる限りその気持ちに寄り添って本当の意味での自立というところまで見守って支援していきたいなと考えています。

これから養育家庭を目指す皆さんへお伝えしたいこととしては、社会的養護にある子供は、特定の大人との愛着が薄いので、心の奥底にどうしても不安定さというのがあると思います。それが心の成長のタイミングで表面化してきたり治まっていたりするので、様子を見ながら対応をする難しさというのがありますので、里親になるにはやはりそれなりの覚悟を持っていただきたいかなと思います。

受託後も様々な研修がありますので、知識や対応の技術を身につけることが必要だと思っています。それによって子供の心の成長に関わってくるといったことがあると思います。相談もいろんな形でできる仕組みになっていますので活用して、里親としてのスキルを身につけていくことが必要かなと思っています。

社会的養護の状況にある子供を育てる困難さというのはあるとは思いますが、子供との生活は本当に楽しくて、幸せを感じる毎日です。本当に日々成長していく子供の姿を目にして、その中で自分も一緒に生きていけるということを楽しんでいます。温かな家庭で自分を精一杯愛してくれる大人がいるということを感じることができる子供が、そういう家庭がどんどん増えていったらいいなと思っています。

13 里親が寄り添い続けた時間と愛情が希望となるように

【里母】

私は里親歴7年になります。現在、小学校5年生の女の子をお預かりしています。養育家庭に登録したのは40歳前半の頃で、実子はありません。養育家庭を希望した理由は幾つかあります。

まず20代の頃、国際協力関係の仕事をしていた時、親のいない子供を育てる夫婦との出会いがあり、海外では里親が特別な存在ではないと知っていたことです。さらに帰国後、暴力を受けた女性支援事業を通じて、今の日本で見られる子供の貧困や虐待は、社会的な格差を容認する構造上の問題が根底にあり、個人の努力や責任感だけでは解決できないと実感したことです。そして何よりも、特に乳幼児期の生育環境は人生そのものに大きく影響すると思っていたので、子供の利益を最優先した養育環境を整えることが、実親のみならず、大人の責任であるということ、日本の社会の中の現状を見て痛感していました。

以上のような経緯から、養育家庭に登録しました。登録後1年程過ぎた頃に現在の里子との交流が始まりました。当時4歳4か月、身体障害などがあるものの活発な女の子でした。交流の初日、障害や病気があること、4歳を過ぎるまで長期に渡って乳児院にいる子供であることを確認後、「正式な交流を始めるか。」と夫に問うた時、「もう、あそこに（乳児と一緒に）置いておけないだろう。」と、直感で判断をした夫に今も感謝しています。

しかし、里子はNICUと乳児院しか知らず、実親との交流もないまま、ある日突然、毎日のように自分だけに会いに来る不思議なおばさんとおじさんをなかなか受け入れてくれませんでした。交流を始めて1か月程たっても、手が握れない日が続きました。乳児院の職員も作戦を考えてくださるのですが、簡単に乗ってはくれません。里子の性格もありますが、私たち里親候補に対する警戒心はかなり強いものでした。

交流から2か月程過ぎて、里子には年齢相応の社会経験が決定的に不足していることに気づきました。そしてそれは、発達にも影響しているように思い、年中から幼稚園に通えるように働きかけました。

うちの里子は持病があり、毎晩自己注射が必要です。ただ、養育家庭として正式に委託されるまでは、里親は治療行為ができないので、交流中の外泊時は、乳児院の職員が里親宅まで来てくれて、注射を手伝ってくれました。そういった部分は、改善されていくように期待しています。

里子との生活ですが、7年過ぎた今でも大変だったのは、1位夜泣き、2位終わらない抱っこ、3位お風呂と歯磨きの時のギャン泣きでした。乳児院に帰りたいと泣き叫ぶ4歳半の夜泣きには、心底疲れしました。幸い、抱っこだけは受け入れてくれたので、深夜、里父と交代で抱き続けました。その中で忘れられない夜泣きがあります。まだ交流中だった2日目の夜、泣きじゃくりながら私のおっぱいをまさぐって、おっぱいを吸ったんですね。もちろん母乳は出ないんですが、里子はずっとNICUにいましたので母乳を知らないです。それでも動物の本能のように乳首を探し求めたんです。その時ばかりは、さすがに里子がとてもふ

びんに思えて、私も涙が止まりませんでした。吸っても何も出てこないことを学習してから、おっぱいを探しては「おっぱいあったね。」と言って、里親と身を合わせて安心するようになりました。この時本当に、おっぱいがついててよかったなと、生まれて初めて思ったのですけれども、何か特別な安心を発するようです。

私たち夫婦は初めての子育てで、本当に最初の1年は手探りでした。周囲には、わがままな子供に翻弄されている過保護な親というふうに映っていたと思います。やはり、時には感情的に叱ってしまうこともありましたが、「あなたのことが大好きだよ」というメッセージを送り続けることだけは、強く意識して努力しました。そのような中で、安定した生活を送ってはいますが、実親の記憶がなく、なぜそうなったかの理由を知らされない、そのむなしさが、やはり自己否定につながる場面がしばしば見られました。

具体的には、小学校3年の終わり頃から4年生にかけて、それまで大して気にすることがなかった勉強のつまずきをきっかけとして、「私は障害があるから捨てられたのか。捨てるならどうして生んだのか。死んだほうがよかった。」というような言葉が増えてきました。その都度、「本当にお母さんもお父さんも、あなたを捨てたわけではない。自分たちでは育てられないけれども、元気に育ってほしいと願って、病院や乳児院に預けたんだ。」と説明はしましたが、真実を知らされない里子にとっては、やはり大人の適当な言い訳としか聞こえなかったと思います。

近い将来、里子是否が応でも、出生のこと、障害のこと、病気のことを背負って、養育家庭から巣立っていきます。人間関係や、感情のコントロールには苦勞すると思いますが、養育家庭でありのままの自分を受け止める経験ができれば、社会に出た時、絶望的な孤立、孤独を味わうことは避けられると思いますし、そうなるように支援したいと思っています。

今日のような場所では、里子は宝物ですとお話するのが一般的ですが、日々を振り返りますと、そう楽しいことばかりではありません。宝物であることは確かですし、実子がいな私たちにとっては「お父さん、お母さん」と甘えてもらえると、幸せな気持ちにはなります。ただ、毎日、宿題や歯磨きなどをきっかけに勃発する親子げんか。何度言っても、提出期限の日の朝に学校のプリントを出してくる里子にいらいらが爆発したり、里子にねだられるまま、グッズを買ってしまう里父との口げんかが日常です。毎日、里親として特別な喜びを味わって暮らしているわけではありません。けれども、乳児院で待っても迎えにこなかった本当の親への思いを抱えながら生きていく里子にとって、他人である里親が寄り添い続けた時間と愛情が、里子の人生にとって、僅かな希望になれば私たちは幸せです。

社会的養護で育つ子供たちが、夢や希望を持てるような社会になるよう、微力ではありますが、これからも里親を続けようと思っています。

令和2年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童 相談所	参加人数				
				養育家庭・ フレンドホーム	都区市町村 及び関係職員	民生児童委員 主任児童委員	一般・学生 その他	合計
令和2年9月6日	文京シビックセンター 4F シルバーホール	文京区	児童相談センター	2	7	0	22	31
令和2年10月1日～ 10月30日	グリーンパレス	江戸川区	江戸川区児童相談所	パネル展・相談ブース設置				198
令和2年10月1日～ 11月30日	あきる野市役所・市内図書館	あきる野市	立川児童相談所	書籍・チラシ・ポスター展示				
令和2年10月1日～ 11月30日	武蔵村山市ＨＰ・公式YouTubeチャンネル	武蔵村山市	小平児童相談所	制度説明・DVD「あなたも里親になりませんか」公開				
令和2年10月1日～ 11月30日	東村山市公式YouTubeチャンネル	東村山市	小平児童相談所	市が作成した動画を公開				
令和2年10月1日～ 11月30日	東大和市役所	東大和市	小平児童相談所	パネル展示・パンフレット設置				
令和2年10月7日	神田さくら館 7階研修室	千代田区	児童相談センター	1	10	0	4	15
令和2年10月8日	西東京市住吉会館 ルピナス 研修室 2F	西東京市	小平児童相談所	5	5	1	3	14
令和2年10月12日	羽村市福祉センター 大会議室	羽村市	立川児童相談所	2	8	0	16	26
令和2年10月16日	アキシマエンス校舎棟2階会議室	昭島市	立川児童相談所	4	9	1	6	20
令和2年10月17日	目黒区総合庁舎 2階 大会議室	目黒区	品川児童相談所	0	3	4	24	31
令和2年10月22日	日野市役所 505会議室	日野市	八王子児童相談所	パネルや里子作品の展示・短編動画上映・ 相談ブース設置・普及啓発グッズ配布				145
令和2年10月23日	東久留米市市民プラザホール	東久留米市	小平児童相談所	3	16	14	4	37
令和2年10月24日	もくせい会館	福生市	立川児童相談所	3	6	3	24	36
令和2年10月24日	小金井市子ども家庭支援センター	小金井市	小平児童相談所	個別相談会			2	2
令和2年10月26日～ 10月30日	八王子駅南口総合事務所	八王子市	八王子児童相談所	パネルや里子作品の展示・短編動画上映・ 相談ブース設置・普及啓発グッズ配布				210
令和2年10月30日	調布市文化会館たづくり 映像シアター	調布市	多摩児童相談所	1	14	2	11	28
令和2年10月31日	小平市 東部市民センター	小平市	小平児童相談所	2	15	3	14	34
令和2年11月1日	神明いきいきプラザ 4階集会室A,B	港区	児童相談センター	2	11	2	23	38
令和2年11月2日～ 11月6日	三鷹市役所本庁舎 1階 三鷹市市民ホール	三鷹市	杉並児童相談所	パネル展示・普及啓発グッズ設置				
令和2年11月4日	多摩市子ども家庭支援センターたまっこ	多摩市	多摩児童相談所	1	0	1	15	17
令和2年11月7日	国立駅前にたちこくぶんじ 市民プラザ	国立市	立川児童相談所	4	14	2	15	35
令和2年11月7日	としまセンタースクエア（豊島区役所内 1階）	豊島区	児童相談センター	6	11	7	60	84
令和2年11月7日	赤羽文化センター 第1視聴覚室	北区	北児童相談所	1	13	1	20	35
令和2年11月8日	かつしかシンフォニーヒルズ 別館5階	葛飾区	足立児童相談所	7	4	1	49	61
令和2年11月9日	稲城市地域振興プラザ 4階大会議室	稲城市	多摩児童相談所	3	6	3	3	15
令和2年11月12日	青梅市福祉センター集会室	青梅市	立川児童相談所	2	10	1	11	24
令和2年11月13日	中野区産業振興センター	中野区	杉並児童相談所	5	8	0	3	16
令和2年11月14日	日の出イオンモール	日の出町	立川児童相談所	3	6	0	27	36
令和2年11月14日	足立区こども支援センターげんき 研修室3	足立区	足立児童相談所	1	5	0	20	26
令和2年11月14日	荏原第五地域センター2階 第1集会室	品川区	品川児童相談所	1	2	6	16	25
令和2年11月16日	台東区役所10階1001会議室	台東区	児童相談センター	0	10	0	18	28
令和2年11月21日	四谷区民ホール	新宿区	児童相談センター	4	13	1	23	41
令和2年11月21日	ころぼっくるホール	清瀬市	小平児童相談所	1	1	2	19	23
令和2年11月24日～ 11月27日	町田市役所 みんなの広場	町田市	八王子児童相談所	パネルや里子作品の展示・短編動画上映・ 相談ブース設置・普及啓発グッズ配布				122
令和2年11月28日	狛江市防災センター 4階会議室	狛江市	多摩児童相談所	1	2	13	9	25
令和2年11月28日	練馬区立 区民・産業プラザ ココネリ研修室 1、2、5	練馬区	児童相談センター	5	2	13	26	46
令和2年11月28日	ウェルファーム杉並	杉並区	杉並児童相談所	1	8	0	22	31
令和2年11月28日	子ども未来センター 2階会議室	立川市	立川児童相談所	5	9	1	19	34
令和2年11月28日	スカイホール	瑞穂町	立川児童相談所	1	9	0	35	45
令和2年11月29日	武蔵野ブレイス	武蔵野市	杉並児童相談所	7	3	1	21	32
令和2年11月30日～ 12月3日	中央区区民センター	中央区	児童相談センター	パネル展示・個人相談コーナー設置				
令和2年12月4日	府中市子ども家庭支援センターたち	府中市	多摩児童相談所	0	4	0	10	14
令和2年12月10日～ 12月19日	JCOM市公式チャンネル・YouTubeチャンネル	国分寺市	小平児童相談所	動画作成・公開（YouTubeは以後公開中）				
令和2年12月12日	墨田区役所 131会議室	墨田区	江東児童相談所	2	25	0	39	66
令和2年12月28日	世田谷区公式YouTubeチャンネル	世田谷区	世田谷区児童相談所	動画作成・公開（以後公開中）				
合 計				86	269	83	633	1,746

※うち体験発表会参加人数は1,069名

令和2年度 養育家庭体験発表会 アンケート結果

質問		9/6	10/7	10/8	10/12	10/16	10/17	10/23	10/24	10/30	10/31
		文京区	千代田区	西東京市	羽村市	昭島市	目黒区	東久留米市	福生市	調布市	小平市
①性別	男性	12	3	1	1	1	4	3	9	8	2
	女性	15	12	11	12	9	20	12	12	20	14
	不明・無回答	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0
②年齢	～20代	0	4	1	1	0	3	0	0	0	0
	30代	10	2	1	1	1	4	1	4	8	2
	40代	9	3	6	0	4	12	2	5	7	6
	50代	6	5	3	6	4	5	2	6	11	2
	60代	1	1	1	3	2	2	6	5	2	6
	70代～	1	0	0	3	0	0	6	1	0	0
	不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③所属	一般	18	4	3	3	2	16	3	8	9	7
	民生児童委員	0	0	0	0	0	0	13	2	2	2
	主任児童委員	0	0	1	0	1	4	1	1	0	1
	養育家庭	2	1	3	0	1	1	0	1	1	2
	フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
	区市町村職員	7	5	0	0	6	2	0	2	2	0
	施設・関係団体職員	0	5	3	2	0	2	0	2	8	3
	学生	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	その他	0	0	0	8	1	0	0	2	1	1
	不明・無回答	0	0	2	1	0	0	0	3	1	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）			0								
	はい	25	14	12	13	10	22	15	19	26	15
	いいえ	2	1	0	1	1	3	1	2	2	1
	不明・無回答	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）											
	ポスター	7	3	2	2	3	1	4	4	1	4
	インターネット	7	3	3	1	1	10	1	4	5	2
	テレビ番組	2	6	1	2	2	3	3	5	4	1
	新聞・雑誌	2	2	2	2	0	0	3	1	1	2
	広報誌・HP	6	3	1	7	5	5	8	7	5	8
	児童福祉施設	2	0	4	4	1	1	2	4	3	2
	テレビCM	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	児相・子ども家庭支援センター	8	2	5	5	8	8	4	7	2	3
	知人・友人	3	1	1	1	0	3	0	1	1	0
	ラジオ	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	図書	1	0	0	1	0	1	0	0	2	0
	公開講座	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2
	その他	3	2	0	1	1	3	4	2	9	4
	不明・無回答	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）											
	区報・市報	11	2	3	5	8	2	7	7	2	5
	都報	1	1	1	0	1	2	3	0	1	2
	ポスター	3	0	0	0	0	0	2	2	1	3
	体験発表会チラシ	2	5	1	2	3	8	8	8	6	9
	インターネット・HP	4	2	0	1	0	6	0	2	5	0
	知人に勧められて	4	1	3	0	0	2	0	0	2	0
	過去に参加	4	3	1	4	2	1	6	5	2	2
	行政機関への問合せ	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0
	その他	2	3	4	8	1	6	5	3	7	5
	不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）											
	養育家庭制度に興味・関心があったから	16	8	5	8	5	18	8	16	8	11
	養育家庭になりたいと思っていたから	13	1	2	1	0	10	1	2	4	4
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	5	5	3	2	1	2	7	4	5	2
	仕事や学問などの参考にするため	7	7	5	4	6	3	5	7	14	6
	その他	1	1	1	2	2	2	2	0	4	2
	不明・無回答	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。											
	とても良かった	17	12	7	7	9	17	11	17	18	12
	良かった	7	3	5	6	1	9	4	3	3	2
	普通	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	0	0	0	1	0	0	2	1	6	0
その他感想数		14	8	8	6	6	9	11	8	11	8
アンケート回答		27	15	12	14	11	26	17	21	28	16
参加者総数		31	15	14	26	20	31	37	36	28	3

令和2年度 養育家庭体験発表会 アンケート結果

質問	11/1	11/3	11/4	11/7	11/7	11/7	11/8	11/9	11/12	11/13
	港区	世田谷区	多摩市	国立市	豊島区	北区	葛飾区	稲城市	青梅市	中野区
①性別 男性	11		0	2	19	2	8	3	3	1
女性	17		16	19	38	13	22	12	7	15
不明・無回答	0		1	0	0	1	0	0	0	0
②年齢 〜20代	4		1	7	9	1	3	0	1	5
30代	2		5	2	7	7	7	4	3	2
40代	17		6	4	17	4	10	6	3	3
50代	4		2	3	16	3	6	1	3	5
60代	0		2	2	7	1	4	2	0	0
70代〜	1		0	2	1	0	0	1	0	1
不明・無回答	0		1	1	0	0	0	0	0	0
③所属 一般	16		11	8	31	9	18	2	5	3
民生児童委員	0		0	2	2	0	1	2	0	0
主任児童委員	2		1	0	5	0	0	1	0	0
養育家庭	2		0	2	6	1	1	3	0	5
フレンドホーム	0		1	0	0	0	0	0	0	0
都職員	0		0	1	0	0	0	0	2	2
区市町村職員	1		0	1	7	3	2	5	0	1
施設・関係団体職員	5		1	6	4	2	2	1	3	5
学生	0		0	0	2	0	3	0	0	0
その他	2		0	1	0	1	2	1	0	0
不明・無回答	0		3	0	0	0	1	0	0	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）										
はい	26		11	20	50	26	26	15	8	16
いいえ	2		6	1	7	0	4	0	2	0
不明・無回答	0		0	0	0	1	0	0	0	0
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）										
ポスター	1		3	0	6	5	5	4	1	1
インターネット	10		1	3	16	8	9	1	2	5
テレビ番組	4		2	6	10	5	4	1	1	2
新聞・雑誌	0		2	0	4	4	5	0	0	2
広報誌・HP	2		2	4	13	13	7	7	2	1
児童福祉施設	3		1	5	12	5	3	0	4	2
テレビCM	0		2	0	1	3	1	0	0	1
児相・子ども家庭支援センター	5		4	7	22	8	5	7	4	5
知人・友人	6		0	1	10	7	6	1	1	2
ラジオ	0		0	0	0	1	2	0	0	0
図書	0		0	1	4	3	1	0	1	0
公開講座	2		1	4	9	6	2	1	1	1
その他	2		2	2	4	2	6	1	1	1
不明・無回答	3		2	1	0	0	1	0	0	1
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）										
区報・市報	2		4	3	13	12	9	7	2	2
都報	1		1	2	2	2	1	0	1	0
ポスター	0		0	1	4	2	4	0	1	1
体験発表会チラシ	9		0	11	19	4	5	0	2	6
インターネット・HP	8		0	3	12	2	7	4	1	3
知人に勧められて	4		0	8	9	4	2	0	0	0
過去に参加	2		0	2	10	1	2	1	2	1
行政機関への問合せ	1		0	0	0	1	1	0	0	0
その他	5		12	1	9	4	8	7	2	4
不明・無回答	1		0	0	0	0	0	0	1	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）										
養育家庭制度に興味・関心があったから	17		4	15	38	25	19	8	5	7
養育家庭になりたいと思っていたから	9			6	14	12	5	2	2	3
子育てに関わる話が聞けると思ったから	8		11	7	20	5	11	5	2	2
仕事や学問などの参考にするため	6		6	7	14	10	9	5	4	5
その他	2		3	1	9	1	4	0	2	4
不明・無回答	0		0	0	0	0	0	0	0	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。										
とても良かった	13		13	20	35	23	21	8	8	13
良かった	14		3	1	14	4	5	6	2	3
普通	0		1	0	2	0	1	0	0	0
あまり良くなかった	0		0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0		0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1		1	0	6	0	3	1	0	0
その他感想数	8		15	20	34	16	14	6	4	11
アンケート回答	28		17	21	57	16	30	15	10	16
参加者総数	38		17	35	84	35	61	15	24	16

令和2年度 養育家庭体験発表会 アンケート結果

質問	11/14	11/14	11/14	11/16	11/21	11/21	11/28	11/28	11/28	11/28
	日の出町	足立区	品川区	台東区	新宿区	清瀬市	狛江市	練馬区	杉並区	立川市
①性別	男性	9	7	6	3	9	4	5	8	9
	女性	23	14	16	21	19	14	19	35	19
	不明・無回答	0	0	1	4	1	0	1	1	0
②年齢	～20代	5	2	3	4	3	2	1	1	5
	30代	7	2	0	7	8	2	2	7	6
	40代	14	8	10	3	7	4	6	13	6
	50代	1	5	6	3	8	5	6	9	9
	60代	1	1	3	5	1	3	5	8	0
	70代～	4	2	1	2		2	5	4	1
	不明・無回答	0	1	0	4	2	0	0	2	1
③所属	一般	15	13	13	6	14	6	7	19	16
	民生児童委員	0	0	1	0		1	10	11	0
	主任児童委員	0	0	5	0	1	0	3	2	0
	養育家庭	3	1	1	0	1	2	1	5	1
	フレント'ホーム	0	0	0	0		0	0	0	0
	都職員	5	0	0	0	5	0	0	0	3
	区市町村職員	1	2	1	7		0	0	1	4
	施設・関係団体職員	3	3	2	4		4	2	1	1
	学生	1	1	1	0		0	1	1	1
	その他	2	1	0	7	3	5	1	2	1
	不明・無回答	2	0	0	4	1	0	0	2	1
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）										
はい	30	20	21	23	24	18	24	32	19	18
いいえ	2	1	2	1	4	0	1	6	9	1
不明・無回答	0	0	0	4	1	0	0	6	0	0
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）										
ポスター	3	2	3	5	3	2	4	2	4	1
インターネット	7	6	8	4	6	2	4	6	2	5
テレビ番組	6	1	4	7	4	3	1	11	3	1
新聞・雑誌	2	0	1	4	1	2	3	3	1	1
広報誌・HP	6	9	9	1	3	6	7	7	7	5
児童福祉施設	2	5	4	2	2	3	3	2	2	5
テレビCM	0	0	0	0		0	0	0	0	0
児相・子ども家庭支援センター	14	6	8	0	5	3	6	6	5	7
知人・友人	7	7	2	0	5	2	3	2	2	3
ラジオ	0	1	0	0		0	1	2	1	0
図書	2	0	1	0	1	0	1	1	0	1
公開講座	4	2	1	3		1	2	1	1	1
その他	4	3	2	7	9	3	7	7	6	5
不明・無回答	0	0	0	5	2	0	2	6	0	0
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）										
区報・市報	2	2	2	4	1	6	3	6	2	3
都報	4	3	1	1	1	2	1	2	2	2
ポスター	5	1	1	0		1	1	5	1	2
体験発表会チラシ	7	8	4	8	6	7	11	14	13	4
インターネット・HP	1	4	9	2	11	1	3	2	1	3
知人に勧められて	7	2	2	4	2	3	3	3	2	4
過去に参加	3	1	5	5	3	2	7	2	2	4
行政機関への問合せ	2	1	2	0	1	0	1	0	1	1
その他	13	3	2	5	7	4	6	8	7	4
不明・無回答	0	1	0	4	1	1	1	9	1	0
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）										
養育家庭制度に興味・関心があったから	21	13	18	10	22	11	14	20	20	14
養育家庭になりたいと思っていたから	7	7	8	6	12	2	3	4	7	3
子育てに関わる話が聞けると思ったから	7	4	2	12	5	3	8	17	7	6
仕事や学問などの参考にするため	8	4	6	1	6	6	8	5	5	9
その他	4	5	3	2	1	4	1	2	3	0
不明・無回答	1	0	0	0		1	2	9	1	0
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。										
とても良かった	28	11	16	17	23	14	20	20	20	13
良かった	4	7	4	7	5	4	3	9	6	4
普通	0	0	1	0		0	0	3	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	0		0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0		0	0	0	0	0
不明・無回答	0	3	2	0	1	0	2	12	2	2
その他感想数	27	11	14	10	12	10	13	15	16	12
アンケート回答	32	21	23	28	29	18	25	44	28	19
参加者総数	36	26	25	28	41	23	25	46	31	34

令和2年度 養育家庭体験発表会 アンケート結果

質問	11/28	11/29	12/4	12/12	総計
	瑞穂町	武蔵野市	府中市	墨田区	
①性別 男性	2	8	3	16	188
女性	28	21	11	24	573
不明・無回答	0	0	0	2	18
②年齢 ～20代	5	4	4	3	88
30代	6	1	5	10	139
40代	11	7	2	15	236
50代	5	9	2	9	172
60代	3	4	0	2	85
70代～	0	4	0	2	44
不明・無回答	0	0	0	1	13
③所属 一般	4	18	8	26	347
民生児童委員	0	0	0	0	50
主任児童委員	0	1	0	0	30
養育家庭	0	6	0	2	55
フレンドホーム	0	0	0	0	2
都職員	0	1	0	0	24
区市町村職員	1	0	0	6	69
施設・関係団体職員	20	2	4	4	108
学生	0	1	1	1	17
その他	4	0	1	3	52
不明・無回答	1	0	0	0	22
2. 養育家庭制度を知っていましたか？（複数回答不可）					
はい	20	25	12	42	697
いいえ	10	4	2	0	79
不明・無回答	0	0	0	0	14
3. 養育家庭制度を知った経緯（複数回答可）					
ポスター	3	5	2	7	103
インターネット	0	9	6	16	173
テレビ番組	5	5	1	7	123
新聞・雑誌	2	3	1	2	58
広報誌・HP	6	7	1	11	191
児童福祉施設	1	4	5	5	103
テレビCM	0	0	0	1	11
児相・子ども家庭支援センター	3	5	1	9	197
知人・友人	1	4	1	5	89
ラジオ	0	0	0	0	10
図書	0	4	0	0	26
公開講座	3	3	4	4	64
その他	7	5	1	5	121
不明・無回答	0	1	0	0	26
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？（複数回答可）					
区報・市報	11	6	3	10	167
都報	1	0	0	3	45
ポスター	0	1	1	2	45
体験発表会チラシ	3	9	5	7	214
インターネット・HP	0	7	5	16	125
知人に勧められて	3	4	0	4	82
過去に参加	1	1	3	7	97
行政機関への問合せ	0	0	0	0	16
その他	12	6	3	4	180
不明・無回答	1	0	0	0	24
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。（複数回答可）					
養育家庭制度に興味・関心があったから	5	18	8	30	465
養育家庭になりたいと思っていたから	0	6	5	8	169
子育てに関わる話が聞けると思ったから	6	7	1	10	202
仕事や学問などの参考にするため	21	4	6	7	226
その他	3	4	0	3	78
不明・無回答	1	0	0		18
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。					
とても良かった	17	19	9	28	536
良かった	8	8	5	11	180
普通	0	0	0	3	14
あまり良くなかった	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0
不明・無回答	5	2	0	0	53
その他感想数	10	15	11	23	416
アンケート回答	30	29	14	42	779
参加者総数	45	32	14	66	1,069

養育家庭(里親)は、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく制度です。

【養育家庭(里親)を詳しく知りたい】

★ 申し込み資格は？

- 都内在住の夫婦で健康な方
配偶者がいない場合は、子供を適切に養育できると認められ、かつ起居を共にし、主たる養育者（申込者本人）の補助者として関与することができる、成人の親族等がいること（子供を適切に養育できると認められる特段の事情がある場合は除く）
- 申込者の家庭及び住居の環境が、家族の構成に応じた適切な環境であること
※その他詳しい要件はお問合せ先に御確認ください。

★ どのような子供を預かるの？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おおむね 18 歳までの子供です。

★ 預かる期間は？

- 養育期間は数年にわたる場合もあれば、数か月の場合もあります。
- 短期間のみ預かる養育家庭もあります。（おおむね 1 か月以上 2 か月未満）

★ 養育に係る費用は？

- 子供の年齢に応じて、生活費や教育費等が支給されます。
- 養育家庭（里親）には手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって関係機関と共に支援を行います。
- 里親自身の休息が必要な場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- 里親同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富な里親が電話等で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

【養育家庭制度に関するお問合せ先】

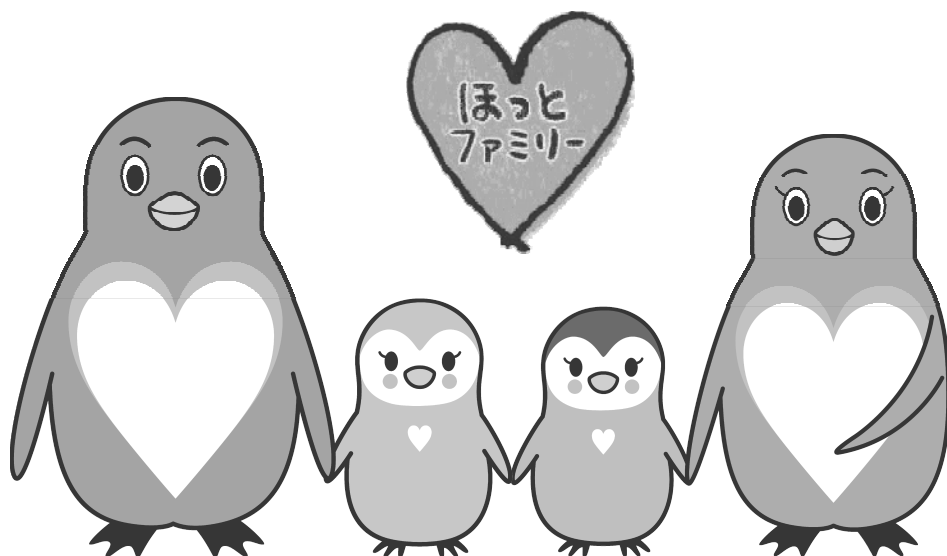
東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。



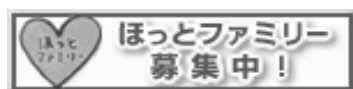
ほっとファミリー

ウェブ検索



こちらのホームページもご覧ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭(里親)体験発表集
令和3年9月発行

登録番号(3) 139

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話03(5320)4135 ファクシミリ03(5388)1406
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四丁目1番8号
電話03(5669)0261

